

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果について

全国学力・学習状況調査は、小学校第6学年と中学校第3学年を対象として平成19年度から実施されています。調査が開始された当初、網走市の平均正答率は、全国平均を10ポイント以上下回る教科がありましたが、全国との差は年々縮まり、近年は一部の教科において全国平均を上回る状況が見られるようになりました。

改善の傾向にある中でも、学力・学習状況ともに改善を要する課題は見られることから、教育委員会、学校、家庭、地域が連携した取組を進め、網走市の子どもたちの力をより一層発揮させる必要があると受け止めています。

網走市教育委員会として、学力の課題やこれまでの取組の成果を学校、家庭、地域と共有するとともに、児童生徒一人一人が確かな学力を身に付けるための取組を充実させるため、網走市学力向上推進委員会とともに分析を行った市内小・中学校全体の調査結果について、今後の方策とともに公表いたします。

1. 調査の概要

1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 実施日 平成30年4月17日（火）

3. 調査の対象学校と対象学年の児童生徒数【悉皆調査】

小学校 9校（網走小学校、中央小学校、西小学校、南小学校、潮見小学校、東小学校、白鳥台小学校、西が丘小学校、呼人小学校）

中学校 6校（第一中学校、第二中学校、第三中学校、第四中学校、第五中学校、呼人中学校）

児童生徒数 小学校第6学年 260名
中学校第3学年 285名

4. 調査の内容

①教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

- ・主として「知識」に関する問題（A）
- ・主として「活用」に関する問題（B）
- ※理科は（A）と（B）を一体的に出題。

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

2. 結果の概要

(1) 小学校の平均正答率・平均正答数

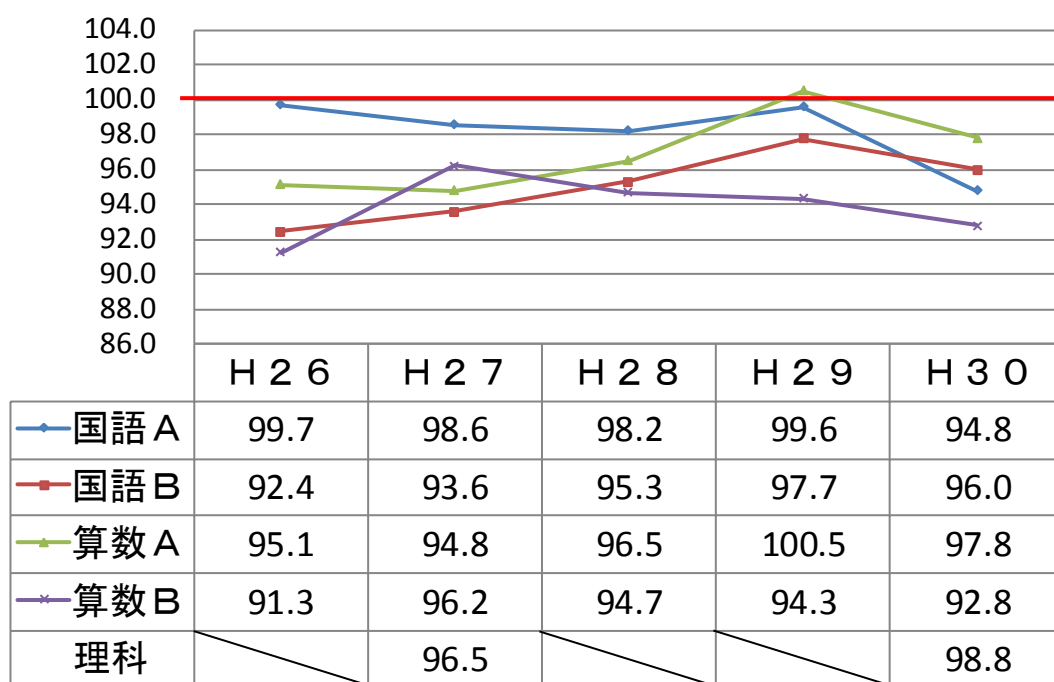
小学校	領 域	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
	問題数	12問	8問	14問	10問	16問
平均正答率 (%)	網走市	67.0	52.5	62.2	47.8	59.6
	北海道	70.1	52.7	62.2	48.7	58.8
	全国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3
北海道平均との差		-3.1	-0.2	0.0	-0.9	0.8
全国平均との差		-3.7	-2.2	-1.3	-3.7	-0.7

小学校	領 域	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
	問題数	12問	8問	14問	10問	16問
平均正答数 (問)	網走市	8.0	4.2	8.7	4.8	9.5
	北海道	8.4	4.2	8.7	4.9	9.4
	全国	8.5	4.4	8.9	5.1	9.6
北海道平均との差		-0.4	0.0	0.0	-0.1	0.1
全国平均との差		-0.5	-0.2	-0.2	-0.3	-0.1

※平均正答率～各教科それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率。

- 全国平均と同様（1ポイント未満の差）・・・理科
 ○全国平均とほぼ同様（1ポイント以上3ポイント以下低い）・・・国語B 算数A
 ○全国平均よりやや低い（3ポイント以上5ポイント以下低い）・・・国語A 算数B

(2) 網走市《小学校》と全国の平均正答率の差（平均正答率の推移）



※調査問題は毎年異なり、平均正答率を年度間で比較することはできないため、全国平均を100とした時の網走市の正答率で比較。

※理科は3年に1回の実施

(3) 中学校の平均正答率・平均正答数

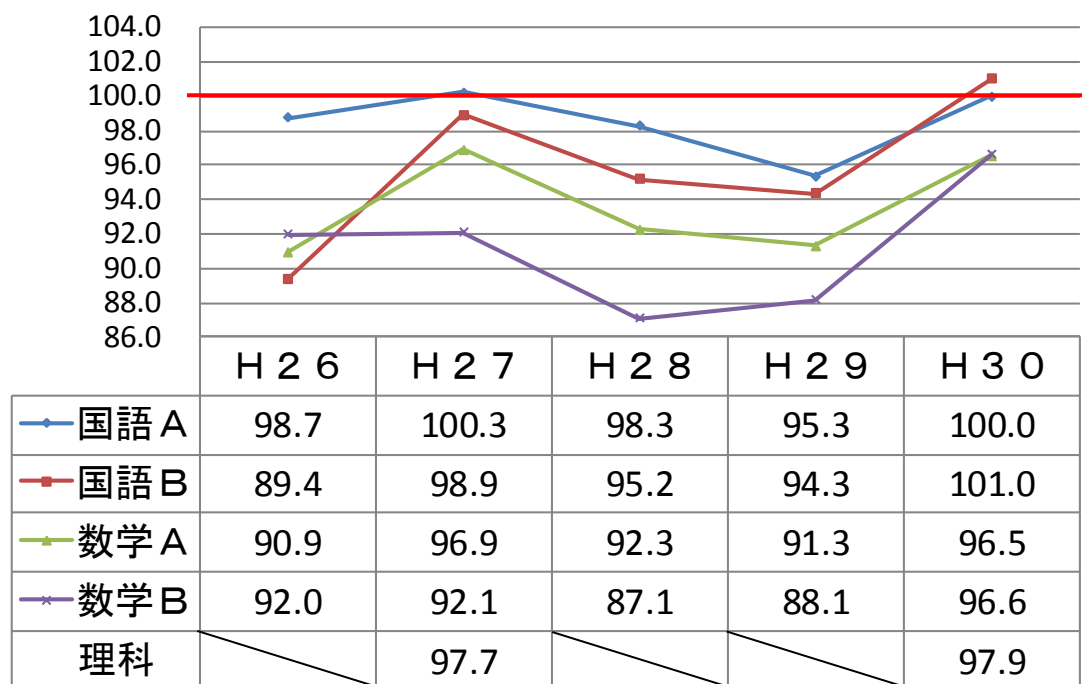
中学校	領 域	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
	問題数	32問	9問	36問	14問	27問
平均 正答率 (%)	網走市	76.1	61.8	63.8	45.2	64.7
	北海道	76.6	61.2	64.9	45.8	66.7
	全国	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1
北海道平均との差		-0.5	0.6	-1.1	-0.6	-2.0
全国平均との差		0.0	0.6	-2.3	-1.7	-1.4

中学校	領 域	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
	問題数	32問	9問	36問	14問	27問
平均 正答数 (問)	網走市	24.4	5.6	23.0	6.3	17.5
	北海道	24.5	5.5	23.4	6.4	18.0
	全国	24.3	5.5	23.8	6.6	17.9
北海道平均との差		-0.1	0.1	-0.4	-0.1	-0.5
全国平均との差		0.1	0.1	-0.8	-0.3	-0.4

※平均正答率～各教科それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率。

○全国平均と同様（1ポイント未満の差）・・・国語A 国語B
○全国平均とほぼ同様（1ポイント以上3ポイント以下低い）・・・数学A 数学B 理科

(4) 網走市《中学校》と全国の平均正答率の差（平均正答率の推移）

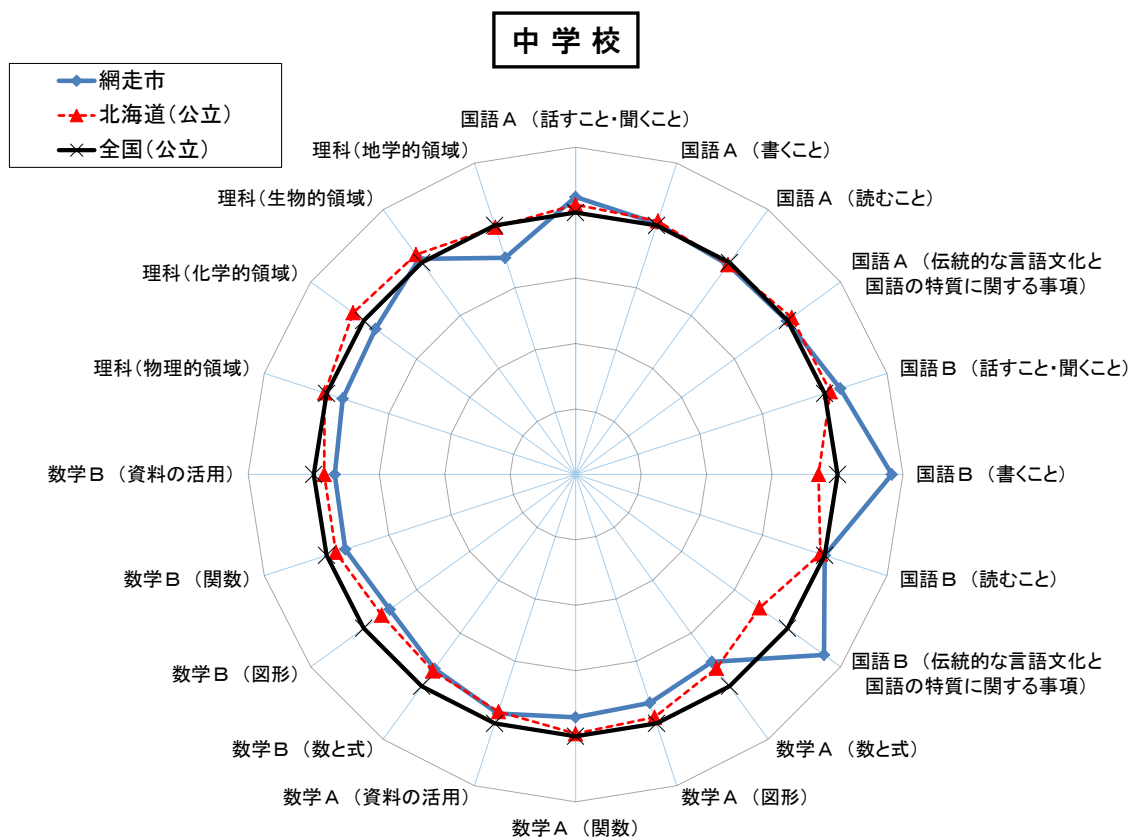
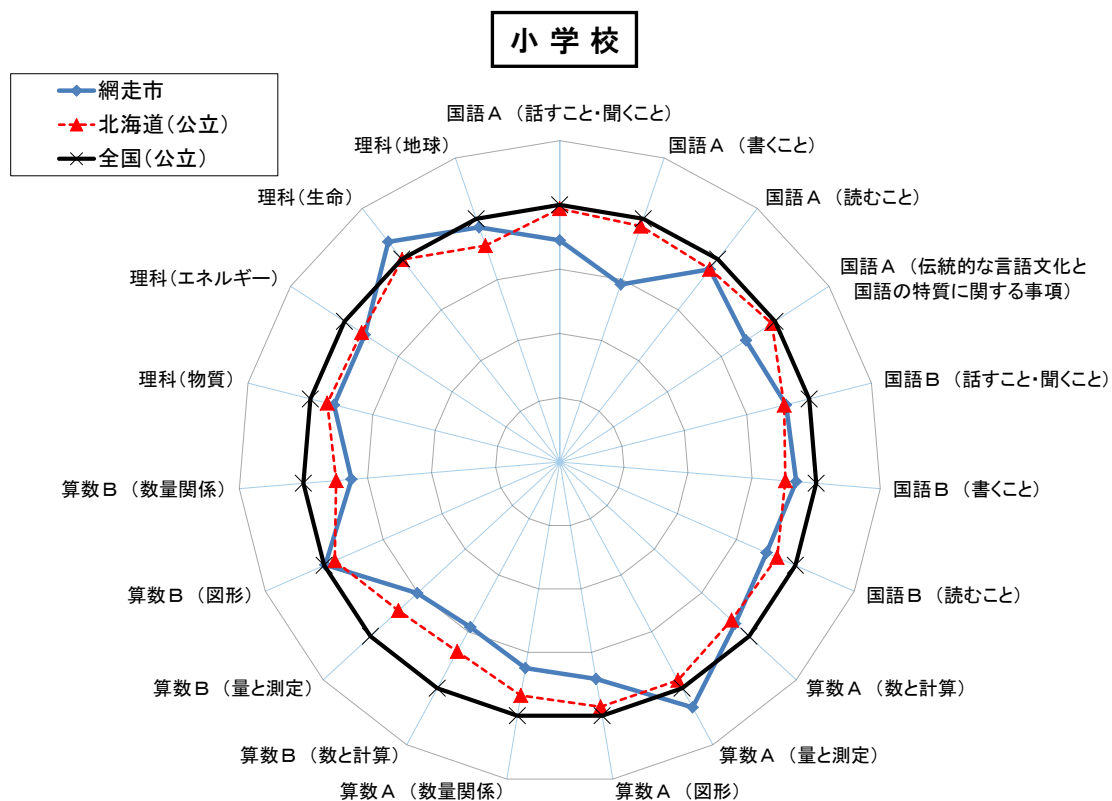


※調査問題は毎年異なり、平均正答率を年度間で比較することはできないため、全国平均を100とした時の網走市の正答率で比較。

※理科は3年に1回の実施

(5) 各教科領域別の状況（レーダーチャート）

各教科領域別の状況

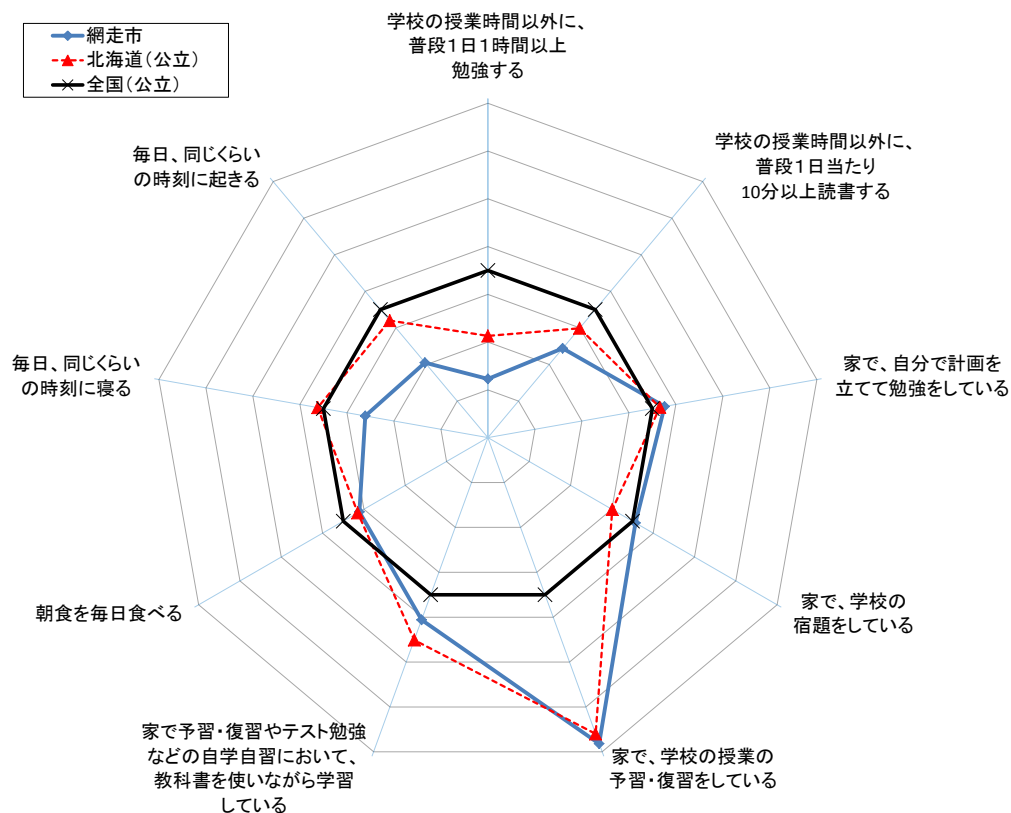


教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 (市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

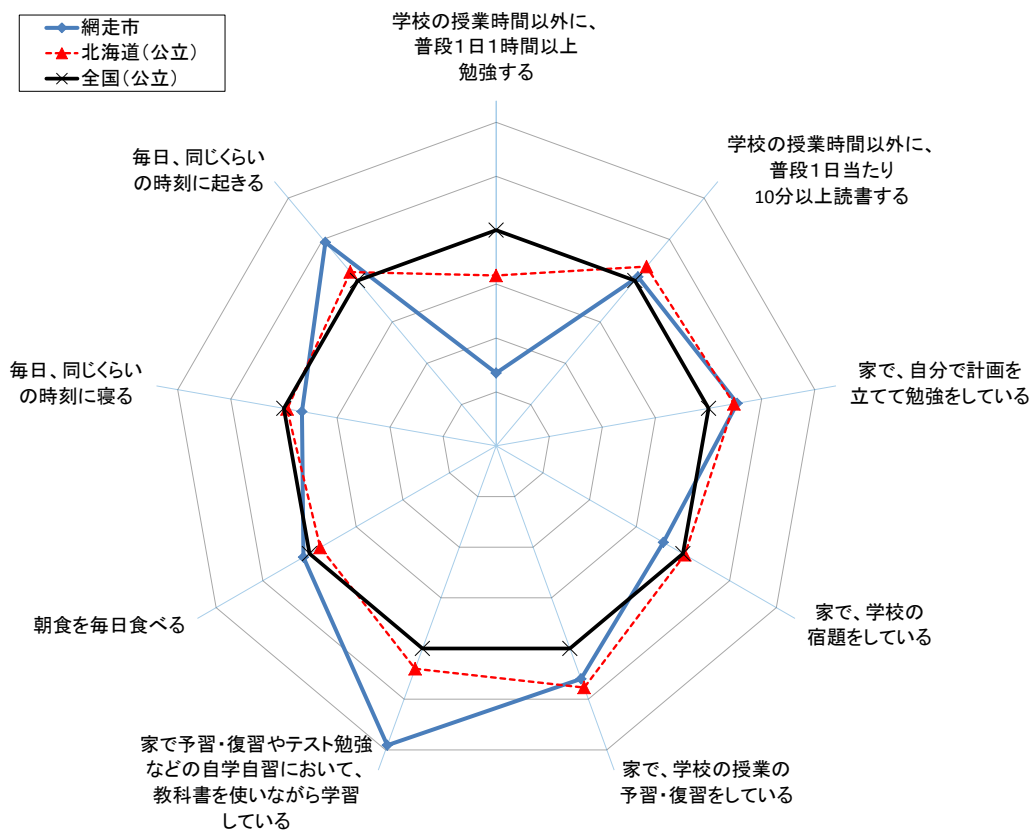
(6) 児童生徒質問紙調査の状況（レーダーチャート）

《 学習習慣 ・ 生活習慣 》

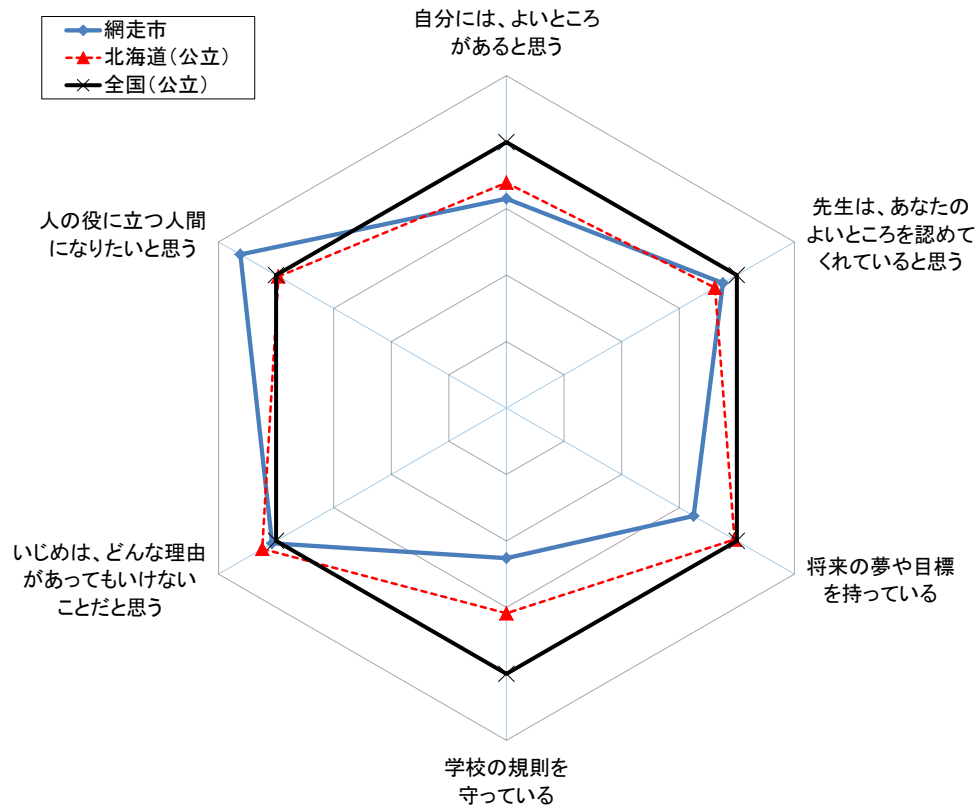
小 学 校



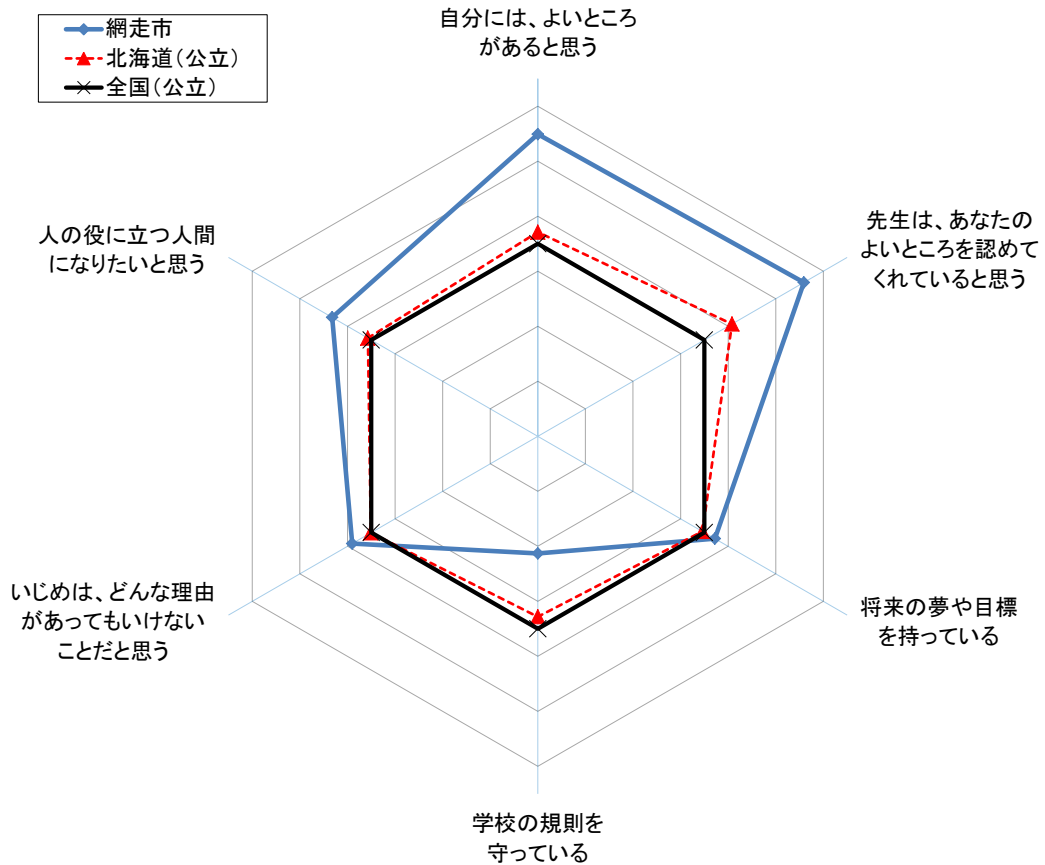
中 学 校



小 学 校



中 学 校



3. 教科に関する調査

○ 小学校国語A

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			網走市	北海道（公立）	全国（公立）
全体		12	67.0	70.1	70.7
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	85.8	90.3	90.8
	書くこと	1	65.8	72.9	73.8
	読むこと	2	72.5	72.5	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	8	63.4	66.6	67.0
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0			
	話す・聞く能力	1	85.8	90.3	90.8
	書く能力	1	65.8	72.9	73.8
	読む能力	2	72.5	72.5	74.0
	言語についての知識・理解・技能	8	63.4	66.6	67.0
問題形式	選択式	11	70.2	73.3	73.9
	短答式	1	31.2	34.9	35.5
	記述式	0			

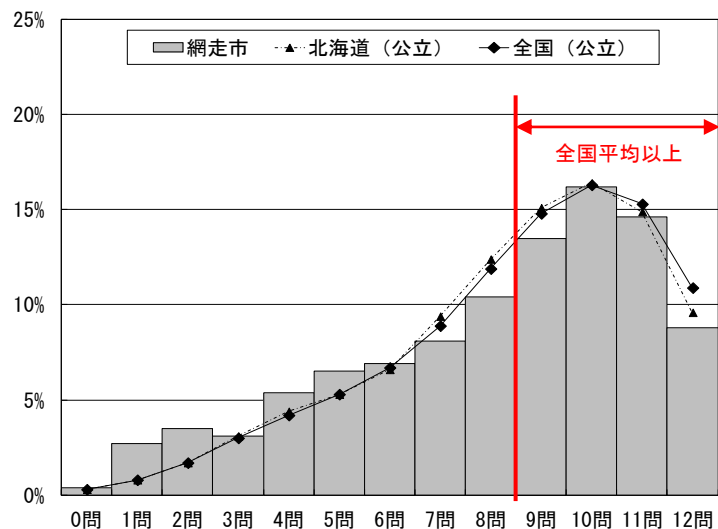
問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率(%)			無解答率(%)			
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	網走市	北海道（公立）	全国（公立）	網走市	北海道（公立）	全国（公立）
正答率が高かった問題（上位３問）																			
1	相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話す	3・4 イ					○				○			85.8	90.3	90.8	0.4	0.0	0.1
6	日常生活で使われている慣用語の意味を理解し、使う				3・4 (1)ア (イ)					○	○			84.2	90.1	90.4	2.3	1.4	1.4
8イ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う				5・6 (1)ウ (ア)					○	○			81.5	83.3	82.2	9.6	6.0	6.3
正答率が低かった問題（下位３問）																			
7	相手や場面に応じて適切に敬語を使う				5・6 (1)イ (ク)					○	○			49.2	52.5	56.0	5.0	2.7	2.7
8オ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う				5・6 (1)ウ (ア)					○	○			45.8	50.1	51.4	11.9	7.5	7.7
5	文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く				3・4 (1)イ (キ)					○		○		31.2	34.9	35.5	3.5	3.3	3.9

全国平均正答率(%)との差(下位3問)										網走市	全国(公立)	全国との差
2	自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える	5・6 イ				○			○	65.8	73.8	-8.0
7	相手や場面に応じて適切に敬語を使う	5・6 (1)イ (ク)						○	○	49.2	56.0	-6.8
6	日常生活で使われている慣用語の意味を理解し、使う	3・4 (1)ア (イ)						○	○	84.2	90.4	-6.2

【小学校国語Aの概要】

- 正答率の全国平均との差は、-3.7ポイント。
- 正答率が全国平均を上回った問題は12問中2問。
- 学習指導要領の領域別(4領域から出題)では、全領域で全国を下回っている。
- 問題形式別では、「選択式」で「短答式」ともに全国を下回っている。
- 平均正答数が9問(全国平均)以上の割合
全国 ~ 57.3%
網走 ~ 53.1%

【正答数分布グラフ(横軸:正答数, 縦軸:割合)】



○ 小学校国語B

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			網走市	北海道（公立）	全国（公立）
全体		8	52.5	52.7	54.7
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	62.2	62.0	64.6
	書くこと	5	44.2	43.4	45.6
	読むこと	2	48.3	49.2	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	0			
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	32.9	30.7	33.2
	話す・聞く能力	3	62.2	62.0	64.6
	書く能力	5	44.2	43.4	45.6
	読む能力	2	48.3	49.2	50.8
	言語についての知識・理解・技能	0			
		5	64.2	65.9	67.6
問題形式	選択式	0			
	短答式	3	32.9	30.7	33.2
	記述式				

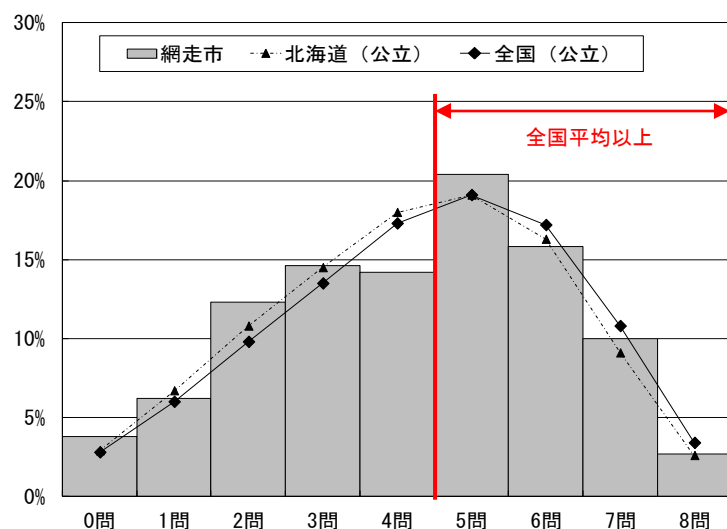
問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域等			評価の観点				問題形式			正答率(%)			無解答率(%)				
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	網走市	北海道（公立）	全国（公立）	網走市	北海道（公立）	全国（公立）
正答率が高かった問題（上位3問）																			
1一	話合いの参加者として、質問の意図を捉える	5・6オ					○			○			79.2	80.6	82.5	0.4	0.3	0.4	
1二	計画的に話し合うために、司会の役割について捉える	5・6オ					○			○			78.5	76.4	77.5	0.4	0.5	0.6	
2三	推薦するためには、他のものと比較して書くことで、よさが伝わることを捉える		5・6ウ				○			○			65.0	68.8	70.8	6.5	3.4	3.4	
正答率が低かった問題（下位3問）																			
3一	目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む			5・6イ				○		○			41.2	47.2	49.4	3.5	3.2	3.2	
1三	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる	5・6エ	5・6ウ			○	○	○				○	28.8	29.1	33.8	8.5	6.7	6.2	
2二	目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く		5・6ウ			○	○					○	14.6	11.8	13.5	4.2	2.9	2.7	

全国平均正答率(%)との差(下位3問)											網走市	全国(公立)	全国との差
3一	目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む		5・6イ				○	○			41.2	49.4	-8.2
2三	推薦するためには、他のものと比較して書くことで、よさが伝わることを捉える	5・6ウ				○		○			65.0	70.8	-5.8
1三	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる	5・6エ	5・6ウ			○	○	○		○	28.8	33.8	-5.0

【小学校国語Bの概要】

- 正答率の全国平均との差は、
-2.2ポイント。
- 正答率が全国平均を上回った問題は8問中3問。
- 学習指導要領の領域別(4領域から出題)では、全領域で全国を下回っている。
- 問題形式別では、「選択式」で「記述式」ともに全国を下回っている。
- 平均正答数が5問(全国平均)以上の割合
全国 ~ 50.5%
網走 ~ 48.9%

【正答数分布グラフ(横軸:正答数, 縦軸:割合)】



○ 小学校算数A

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			網走市	北海道（公立）	全国（公立）
	全体	14	62.2	62.2	63.5
学習指導要領の領域	数と計算	5	60.5	60.0	62.3
	量と測定	4	75.2	71.7	72.7
	図形	3	53.6	56.1	56.9
	数量関係	5	55.6	58.2	60.1
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	0			
	数量や図形についての技能	5	59.2	61.9	63.0
	数量や図形についての知識・理解	9	63.8	62.3	63.8
問題形式	選択式	10	61.4	60.9	61.8
	短答式	4	64.1	65.3	67.8
	記述式	0			

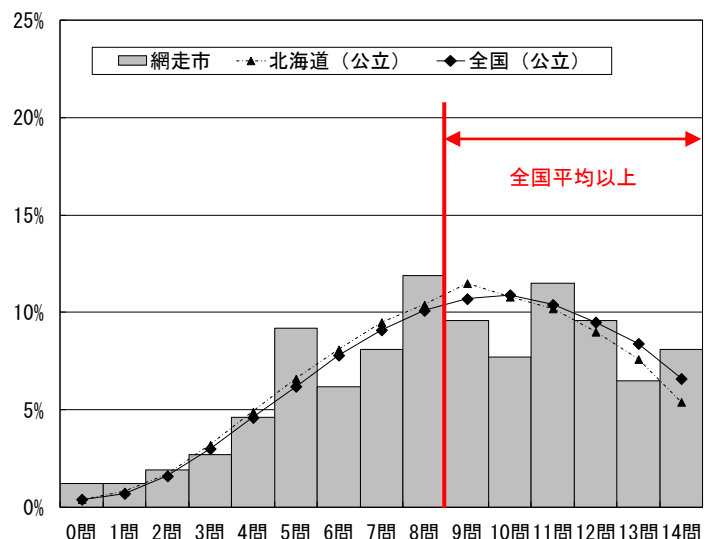
問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	網走市	北海道(公立)	全国(公立)	網走市	北海道(公立)	全国(公立)
正答率が高かった問題(上位3問)																		
5(1)	180°の角の大きさを理解している		4B(2)アイ						○	○			95.4	93.8	94.4	1.9	1.1	1.1
4(1)	異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解している		5B(4)ア						○	○			89.6	87.1	87.8	1.5	0.6	0.6
3	十進位取り記数法で表された数の大小について理解している		2A(1)イ						○		○		75.4	74.9	76.4	3.5	1.3	1.3
正答率が低かった問題(下位3問)																		
8	百分率を求めることができる				5D(3)			○		○			48.8	52.5	52.9	6.9	4.7	4.6
7(1)	円周率の意味について理解している			3C(1)ウ					○	○			43.5	43.2	41.6	4.6	3.2	3.2
2	小数の除法の意味について理解している								○	○			39.6	34.5	39.9	1.9	0.8	1.0

全国の平均正答率(%)との差(下位3問)											網走市	全国(公立)	全国との差
6	示された表現方法を基に、空間の中にあるものの位置を表現することができる			4C(3)				○		○	67.3	73.5	-6.2
9	折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることができる			4D(1)ア				○	○		57.7	63.6	-5.9
1(1)	除法で表すことができる二つの数量の関係を理解している			4A(3)イ				○	○		57.3	62.9	-5.6

【小学校算数Aの概要】

- 正答率の全国平均との差は、-1.3ポイント。
- 正答率が全国平均を上回った問題は14問中4問
- 学習指導要領の領域別(4領域から出題)では、1領域で全国を上回っている。
- 問題形式別では、「選択式」「短答式」とともに全国を下回っている。
- 平均正答数が24問(全国平均)以上の割合
全国 ~ 56.5%
網走 ~ 53.0%

【正答数分布グラフ(横軸:正答数, 縦軸:割合)】



○ 小学校算数B

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			網走市	北海道（公立）	全国（公立）
全体		10	47.8	48.7	51.5
学習指導要領の領域	数と計算	6	52.1	54.6	58.4
	量と測定	4	47.2	49.3	52.4
	図形	2	59.8	58.8	59.9
	数量関係	5	41.7	42.8	45.1
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	9	44.7	46.0	49.2
	数量や図形についての技能	0			
	数量や図形についての知識・理解	1	75.0	72.6	71.7
問題形式	選択式	3	53.3	52.5	54.0
	短答式	2	60.8	64.0	66.6
	記述式	5	39.2	40.3	43.9

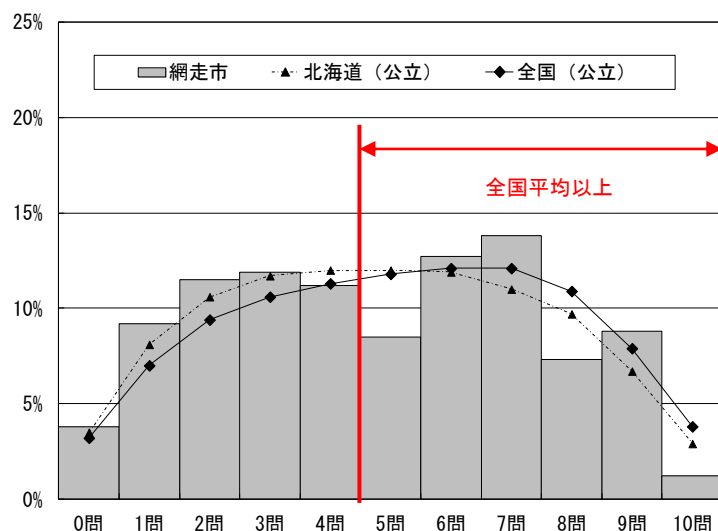
問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域			評価の観点							正答率(%)			無解答率(%)			
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	網走市	北海道(公立)	全国(公立)	網走市	北海道(公立)	全国(公立)
正答率が高かった問題(上位3問)																		
1(1)	合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見いだすことができる			3C(1)イ					○	○			75.0	72.6	71.7	1.2	0.3	0.3
2(1)	示された情報を解釈し、条件に合う時間を求めることができる	1A(2)ア 1A(2)イ 1C(2)ア	3B(3)イ		2D(1)		○				○		66.9	69.6	70.5	2.3	1.7	1.5
5(2)	折り紙の輪の色の規則性を解釈し、それを基に条件に合う色を判断することができる	1A(1)イ 1A(1)ア 1A(1)イ 1A(1)イ					○			○			57.7	61.8	66.5	15.8	10.8	8.3
正答率が低かった問題(下位3問)																		
5(1)	折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を、示された数量を関連付け根拠を明確にして記述できる	2A(2)ア 2A(2)イ 2A(2)ア 2A(2)イ	2B(1)ア				○				○		36.2	38.3	43.2	23.5	20.0	16.6
3(2)	棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断することができる				3B(3)ア 3D(5)イ 3D(5)イ		○			○			27.3	23.2	23.9	3.1	1.3	1.1
3(1)	メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できる				3D(3)ア		○				○		18.5	18.3	20.7	23.1	20.1	18.0

全国平均正答率(%)との差(下位3問)											網走市	全国(公立)	全国との差
5(2)	折り紙の輪の色の規則性を解釈し、それを基に条件に合う色を判断することができる	3B(3)イ					○		○		57.7	66.5	-8.8
4(1)	示された考えを解釈し、条件を変更して数量の関係を考察し、分配法則の式に表現することができる	3B(3)イ			4B(2)ア		○		○		54.6	62.7	-8.1
5(1)	折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を、示された数量を関連付け根拠を明確にして記述できる	2B(1)ア					○			○	36.2	43.2	-7.0

【小学校算数Bの概要】

- 正答率の全国平均との差は、-3.7ポイント。
- 正答率が全国平均を上回った問題は10問中2問
- 学習指導要領の領域別(4領域から出題)では、全領域で全国を下回っている。
- 問題形式別では、「選択式」「短答式」「記述式」ともに全国を下回っている。
- 平均正答数が5問(全国平均)以上の割合
全国 ~ 58.6%
網走 ~ 52.3%

【正答数分布グラフ(横軸:正答数, 縦軸:割合)】



○ 小学校理科

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				網走市	北海道（公立）	全国（公立）
全体			16	59.6	58.8	60.3
枠組み	主として「知識」に関する問題		3	80.0	78.0	78.0
	主として「活用」に関する問題		13	55.0	54.0	56.2
学習指導要領の区分等	A区分	物質	4	57.5	58.2	59.8
		エネルギー	4	51.1	51.4	53.1
	B区分	生命	4	76.1	73.5	73.6
		地球	6	48.8	47.3	49.5
評価の観点	自然事象への関心・意欲・態度		1	87.7	81.9	82.1
	科学的な思考・表現		12	52.1	52.0	54.1
	観察・実験の技能		1	72.4	71.7	71.1
	自然事象についての知識・理解		2	83.7	81.0	81.5
問題形式	選択式		13	62.5	61.9	63.8
	短答式		1	88.1	82.5	79.4
	記述式		2	26.2	26.2	28.0

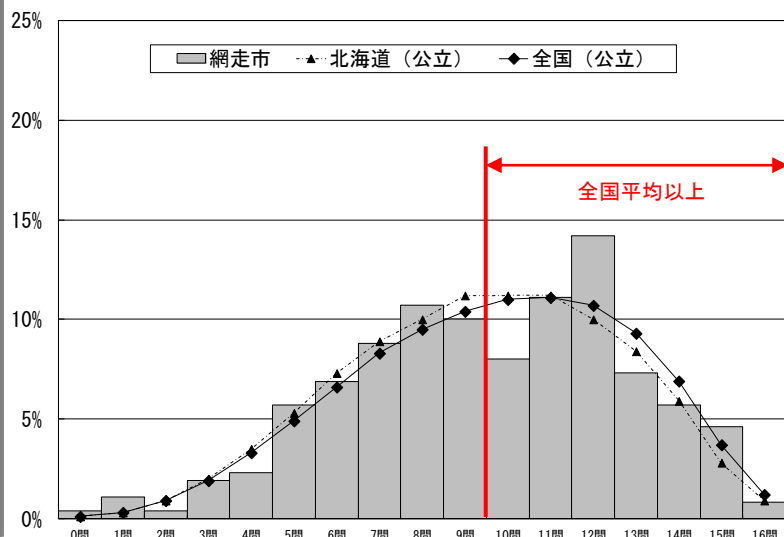
問題 番号	出題の趣旨	枠組み 主として「知識」に関する問題	学習指導要領の分野等				評価の観点				問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
			主として「活用」に関する問題	物質 エネルギー	生命 地球	第1分野	第2分野	自然事象への関心・意欲・態度	観察・実験の技能	科学的な思考・表現	選択式	短答式	記述式	網走市	北海道（公立）	全国（公立）	網走市	北海道（公立）	全国（公立）
正答率が高かった問題（上位3問）																			
1（3）	骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解している	○				4B (1)イ					○		○	88.1	82.5	79.4	1.9	2.9	3.8
1（1）	安全に留意し、生物を愛護する態度をもって、野鳥のひなを観察できる方法を構想できる	○				4B (2)ア		○			○			87.7	81.9	82.1	0.0	0.0	0.0
4（2）	より妥当な考えをつくりだすために、2つの異なる方法の実験結果を分析して考察できる	○				5A (1)イウ			○		○			87.4	88.7	89.4	1.5	0.6	0.6
正答率が低かった問題（下位3問）																			
4（4）	実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述できる			○		4A (2)ウ			4B (3)イ	○			○	36.0	35.0	35.9	7.7	8.7	8.9
4（3）	物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用できる	○		○		5A (1)ウ				○	○			34.1	37.6	42.7	2.3	1.2	1.3
2（3）	より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できる	○						5B (3)		○		○		16.5	17.4	20.1	2.3	0.9	1.0

全国平均正答率(%)との差(下位3問)							網走市	全国(公立)	全国との差
4(3)	物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用できる	○	5A(1)ウ		○	○	34.1	42.7	-8.6
2(1)	堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解している	○		5B(3)ア	○	○	79.3	83.6	-4.3
3(1)	乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを実際の回路に適用できる	○	4A(3)ア		○	○	59.4	63.5	-4.1

【小学校理科の概要】

- 正答率の全国平均との差は、
-0.7ポイント。
- 正答率が全国平均を上回った問題は16問中7問。
- 学習指導要領の領域別(4領域から出題)では、1領域で全国を上回り、3領域で全国を下回っている。
- 問題形式別では、「短答式」で全国を上回り、「選択式」「記述式」で全国を下回っている。
- 平均正答数が10問(全国平均)以上の割合
全国 ~ 53.9%
網走 ~ 51.7%

【正答数分布グラフ(横軸:正答数, 縦軸:割合)】



○ 中学校国語A

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			網走市	北海道（公立）	全国（公立）
全体		32	76.1	76.6	76.1
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	77.0	76.1	75.2
	書くこと	4	74.1	74.4	73.9
	読むこと	4	76.4	76.4	76.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	21	76.4	77.1	76.5
	国語への関心・意欲・態度	0	－	－	－
評価の観点	話す・聞く能力	3	77.0	76.1	75.2
	書く能力	4	74.1	74.4	73.9
	読む能力	4	76.4	76.4	76.7
	言語についての知識・理解・技能	21	76.4	77.1	76.5
	選択式	21	77.4	77.1	76.8
問題形式	短答式	11	73.8	75.7	74.7
	記述式	0	－	－	－

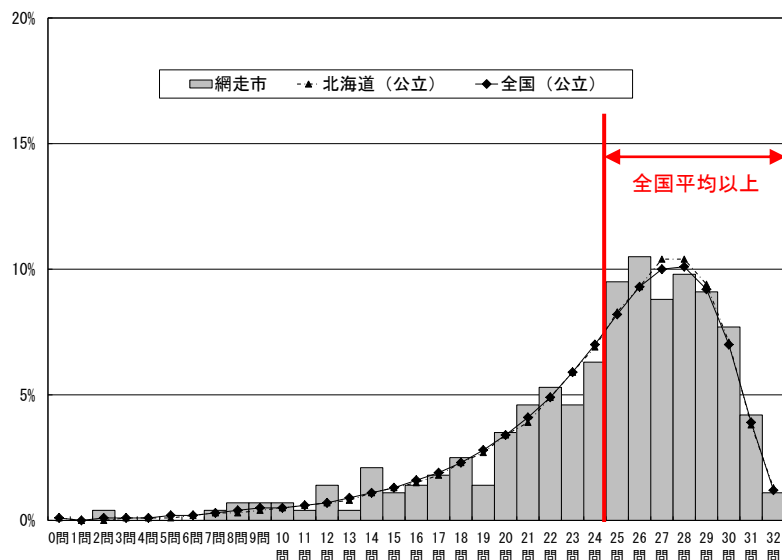
問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率(%)			無解答率(%)			
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	網走市	北海道（公立）	全国（公立）	網走市	北海道（公立）	全国（公立）
正答率が高かった問題（上位３問）																			
８二 三	文脈に即して漢字を正しく読む				２（１） ウ（７）					○	○		99.3	98.8	98.1	0.4	0.6	1.1	
８二 二	文脈に即して漢字を正しく読む				２（１） ウ（７）					○	○		97.5	98.1	97.8	0.4	0.5	0.9	
８三 キ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う				１（１） イ（２）					○	○		95.8	95.7	95.2	0.4	0.9	1.0	
正答率が低かった問題（下位３問）																			
８六 二	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む				１（１） ア（７）					○	○		52.6	64.4	63.0	6.3	7.8	7.4	
８三 エ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う				１（１） イ（９）					○	○		29.8	28.1	29.2	0.4	0.8	0.9	
８四 二	目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く				２（１） イ（９）					○	○		21.1	22.4	22.3	6.3	6.8	6.5	

全国の平均正答率(%)との差（下位3問）										網走市	全国(公立)	全国との差	
8六 2	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む				1 (1) ア (7)				○	○	52.6	63.0	-10.4
8三 ウ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う				2 (1) イ (7)				○	○	80.7	88.0	-7.3
8一 2	文脈に即して漢字を正しく書く				2 (1) ウ (4)				○	○	69.8	72.9	-3.1

【中学校国語Aの概要】

- 正答率の全国平均との差は、±0ポイント。
- 正答率が全国平均を上回った問題は32問中16問。
- 学習指導要領の領域別(4領域から出題)では、2領域で全国を上回っている。
- 問題形式別では、「選択式」で全国を上回り、「短答式」で全国を下回っている。
- 平均正答数が25問(全国平均)以上の割合
全国 ~ 58.9%
網走 ~ 60.7%

【正答数分布グラフ(横軸:正答数,縦軸:割合)】



○ 中学校国語B

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			網走市	北海道（公立）	全国（公立）
	全体	9	61.8	61.2	61.2
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	78.5	77.3	76.6
	書くこと	2	33.9	30.4	31.3
	読むこと	6	53.5	53.1	53.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1	52.6	46.6	49.2
	国語への関心・意欲・態度	3	51.6	49.5	50.3
評価の観点	話す・聞く能力	3	78.5	77.3	76.6
	書く能力	2	33.9	30.4	31.3
	読む能力	6	53.5	53.1	53.5
	言語についての知識・理解・技能	1	52.6	46.6	49.2
		6	66.9	67.1	66.7
問題形式	選択式	0	－	－	－
	短答式	3	51.6	49.5	50.3
	記述式				

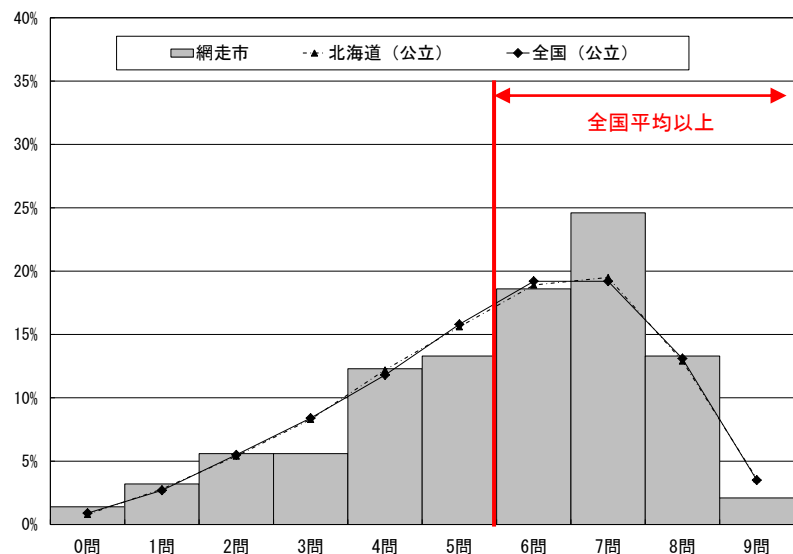
問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率(%)			無解答率(%)			
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	網走市	北海道（公立）	全国（公立）	網走市	北海道（公立）	全国（公立）
正答率が高かった問題（上位３問）																			
2－	質問の意図を捉える	1エ					○			○			87.7	87.6	86.8	0.0	0.1	0.2	
2－	話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問する	1エ					○	○				○	87.0	87.6	88.3	8.8	6.9	5.9	
3－	場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する			1ウ					○	○			78.6	79.4	80.2	0.0	0.3	0.4	
正答率が低かった問題（下位３問）																			
3三	相手に的確に伝えるように、あらすじを捉えて書く		1ウ	1イ	2ア(1イ)		○		○	○	○		○	52.6	46.6	49.2	17.2	15.8	12.4
1－	文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉える			1イ					○	○			37.9	44.4	45.9	0.0	0.1	0.2	
1三	目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く		2ウ	1イ			○		○	○			○	15.1	14.2	13.3	10.2	8.1	7.0

全国平均正答率(%)との差(下位3問)										網走市	全国(公立)	全国との差
1-1	文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉える		1イ					○	○	37.9	45.9	-8.0
3-1	場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する		1ウ					○	○	78.6	80.2	-1.6
2-2	話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問する	1エ				○	○			87.0	88.3	-1.3

【中学校国語Bの概要】

- 正答率の全国平均との差は、+0.6ポイント。
- 正答率が全国平均を上回った問題は9問中5問。
- 学習指導要領の領域別(4領域から出題)では、3領域で全国を上回っている。
- 問題形式別では、「選択式」「記述式」とともに全国を上回っている。
- 平均正答数が6問(全国平均)以上の割合
全国 ~ 55.0%
網走 ~ 58.6%

【正答数分布グラフ(横軸:正答数, 縦軸:割合)】



○ 中学校数学A

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			網走市	北海道（公立）	全国（公立）
	全体	36	63.8	64.9	66.1
学習指導要領の領域	数と式	12	67.8	68.7	71.1
	図形	12	66.8	68.4	69.1
	関数	8	53.9	55.3	55.5
	資料の活用	4	62.5	62.3	63.5
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0	－	－	－
	数学的な見方や考え方	0	－	－	－
	数学的な技能	14	68.3	69.0	70.4
	数量や図形などについての知識・理解	22	61.0	62.3	63.3
問題形式	選択式	18	59.0	60.8	61.5
	短答式	18	68.6	69.1	70.7
	記述式	0	－	－	－

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
		数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式	網走市	北海道(公立)	全国(公立)	網走市	北海道(公立)	全国(公立)

正答率が高かった問題（上位3問）

1(1)	数直線上に示された負の整数を読み取ることができる	1(1)ア						○		○			94.0	94.0	94.6	0.7	0.4	0.4
2(2)	単項式どうしの除法の計算ができる	2(1)ア						○		○			91.6	90.5	91.0	2.5	2.3	2.4
3(2)	簡単な比例式を解くことができる	1(3)ウ						○		○			84.6	85.7	87.8	6.7	6.0	5.0

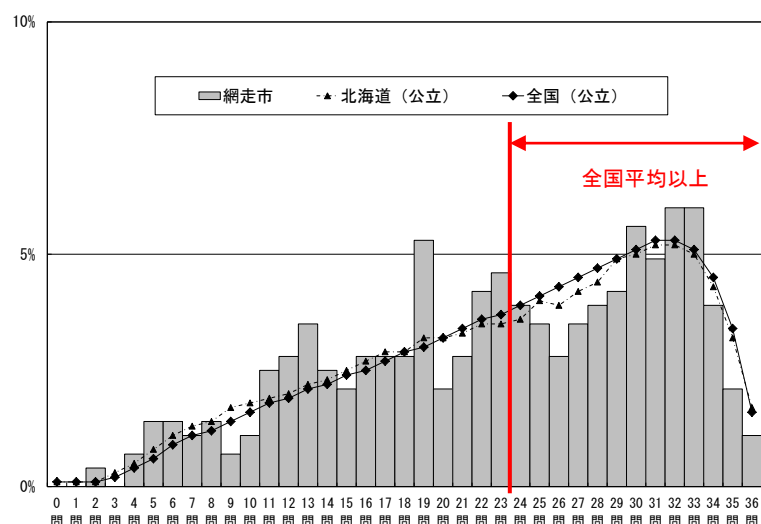
正答率が低かった問題（下位3問）

2(1)	数量の大小関係を不等式に表すことができる	1(2)エ						○		○			43.5	39.1	41.5	11.2	9.8	8.5
15(1)	多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解している			2(1)ア				○	○				42.8	40.6	40.2	0.4	1.8	1.8
12	一次関数の意味を理解している			2(1)ア				○	○				37.2	34.4	36.4	0.4	1.0	1.0

全国平均正答率(%)との差（下位3問）

全国の平均正答率(%)との差（下位3問）										網走市	全国(公立)	全国との差	
1（3）	指数を含む正の数と負の数の計算ができる	1 ⁽¹⁾ ウ						○		○	58.9	68.9	-10.0
6（1）	三角形の外角とそれと隣り合わない2つの内角の和の関係を理解している	2 ⁽¹⁾ ア						○	○		62.8	71.4	-8.6
1（4）	ある基準に対して反対の方向や性質をもつ数量が正の数と負の数で表されることを理解している	1 ⁽¹⁾ 7.1						○	○		46.0	54.2	-8.2

【正答数分布グラフ(横軸:正答数,縦軸:割合)】



【中学校数学Aの概要】

- 正答率の全国平均との差は、-2.3ポイント。
- 正答率が全国平均を上回った問題は36問中9問。
- 学習指導要領の領域別(4領域から出題)では、全領域で全国を下回っている。
- 問題形式別では、「選択式」「短答式」とともに全国を下回っている。
- 平均正答数が24問(全国平均)以上の割合
 - 全国 ~ 56.7%
 - 網走 ~ 51.4%

○ 中学校数学B

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			網走市	北海道（公立）	全国（公立）
全体		14	45.2	45.8	46.9
学習指導要領の領域	数と式	4	49.7	49.9	51.4
	図形	3	44.4	45.1	46.7
	関数	3	51.2	52.0	52.8
	資料の活用	4	36.8	37.4	38.0
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0	－	－	－
	数学的な見方や考え方	10	42.5	43.6	45.1
	数学的な技能	4	52.1	51.1	51.3
	数量や図形などについての知識・理解	0	－	－	－
問題形式	選択式	2	62.5	61.3	61.5
	短答式	7	55.6	55.3	56.2
	記述式	5	23.9	26.2	27.9

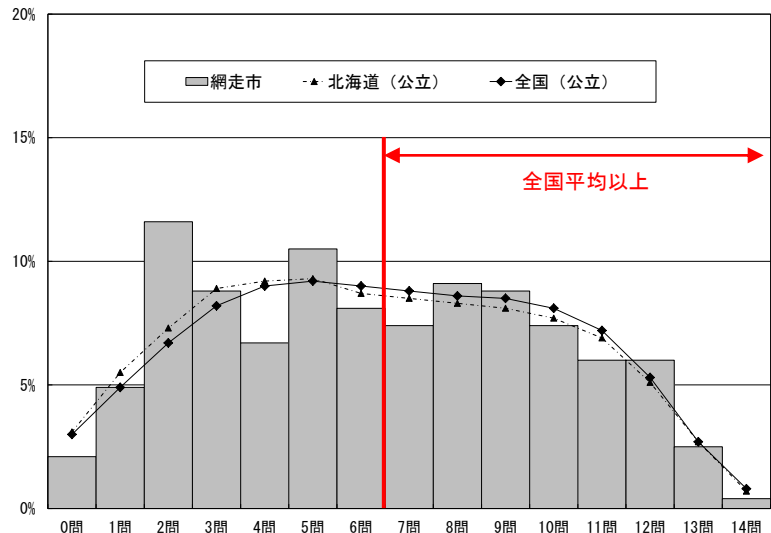
問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
		数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式	網走市	北海道(公立)	全国(公立)	網走市	北海道(公立)	全国(公立)
正答率が高かった問題(上位3問)																		
2 (1)	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	1(1)ウ						○		○		90.2	88.8	89.5	5.6	4.7	4.4	
3 (2)	グラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈することができる			2(1)イ,エ			○			○		72.3	75.8	77.7	13.3	8.5	6.9	
3 (1)	事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを事象に即して解釈することができる			2(1)イ,エ			○			○		69.8	68.4	67.6	0.0	0.3	0.5	
正答率が低かった問題(下位3問)																		
5 (1)	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる			小5数量(3)			○			○		18.9	17.4	16.0	31.2	27.4	24.1	
3 (3)	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる			2(1)イ,エ			○			○		11.6	11.6	13.2	38.2	38.9	33.4	
5 (2)	里奈さんの計算を解釈し、数学的な表現を用いて説明することができる	2(1)イ					○			○		8.8	9.8	10.4	13.3	9.4	6.6	

全国平均正答率(%)との差(下位3問)										網走市	全国(公立)	全国との差
1(3)	不確実な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することができる			2(1)イ		○			○	29.1	36.2	-7.1
6(1)	事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することができる	2(1)イ,ウ				○			○	31.6	37.5	-5.9
1(4)	グラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈することができる		2(1)イ,エ			○			○	72.3	77.7	-5.4

【中学校数学Bの概要】

- 正答率の全国平均との差は、
-1.7ポイント。
- 正答率が全国平均を上回った問題は14問中5問
- 学習指導要領の領域別(4領域から出題)では、全領域で全国を下回っている。
- 問題形式別では、「選択式」で全国を上回り、「短答式」「記述式」で全国を下回っている。
- 平均正答率が7問(全国平均)以上の割合
全国 ~ 50.0%
網走 ~ 47.6%

【正答数分布グラフ(横軸:正答数,縦軸:割合)】



○ 中学校理科

分類	区分		対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				網走市	北海道（公立）	全国（公立）
全体			27	64.7	66.7	66.1
枠組み	主として「知識」に関する問題		11	66.0	70.0	67.9
	主として「活用」に関する問題		16	64.0	65.0	64.9
学習指導要領の分野等	第1分野	物理的領域	7	72.5	74.6	74.4
		化学的領域	8	63.6	66.3	65.0
	第2分野	生物的領域	6	73.0	73.6	72.5
		地学的領域	7	54.8	57.6	57.8
		自然事象への関心・意欲・態度	1	73.0	73.4	74.0
評価の観点	科学的な思考・表現		16	63.6	64.8	64.9
	観察・実験の技能		4	64.0	68.6	67.0
	自然事象についての知識・理解		8	66.9	70.3	68.7
	選択式		17	69.2	71.6	70.9
問題形式	短答式		4	71.1	71.3	70.2
	記述式		6	47.5	49.9	50.1

問題番号	出題の趣旨	枠組み 主として「知識」に関する問題	学習指導要領の分野等 主として「活用」に関する問題	第1分野 物理的領域	第2分野 化学的領域	第3分野 生物的領域	第4分野 地学的領域	評価の観点 科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解	問題形式 選択式	短答式	記述式	正答率(%)			無解答率(%)		
														網走市	北海道(公立)	全国(公立)	網走市	北海道(公立)	全国(公立)

正答率が高かった問題(上位3問)

7(3)	初期微動継続時間の長さや震源からの距離の知識と音の速さに関する知識を活用できる	○	(1)ア(9)			(2)ア(4)		○			○			93.3	95.1	94.4	5.3	3.1	3.6
6(3)	豆電球と豆電球型のLEDの点灯の様子と電力との関係を指摘できる	○	(3)ア(9)					○			○			91.2	91.7	91.4	0.7	0.5	0.6
2(1)	無脊椎動物と軟体動物の体のつくりの特徴に関する知識を活用できる	○			(3)ウ(4)			○			○			88.1	88.3	86.2	0.4	0.1	0.1

正答率が低かった問題(下位3問)

2(2)	濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できる	○		(2)イ(7)				○	○					42.5	47.8	46.9	2.1	1.3	1.3
3(1)	風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用できる	○			(4)ア(7)			○		○				34.7	35.8	37.5	0.4	0.2	0.2
9(2)	植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できる	○			(4)ア(7)			○				○		15.1	19.3	19.4	20.7	22.0	21.4

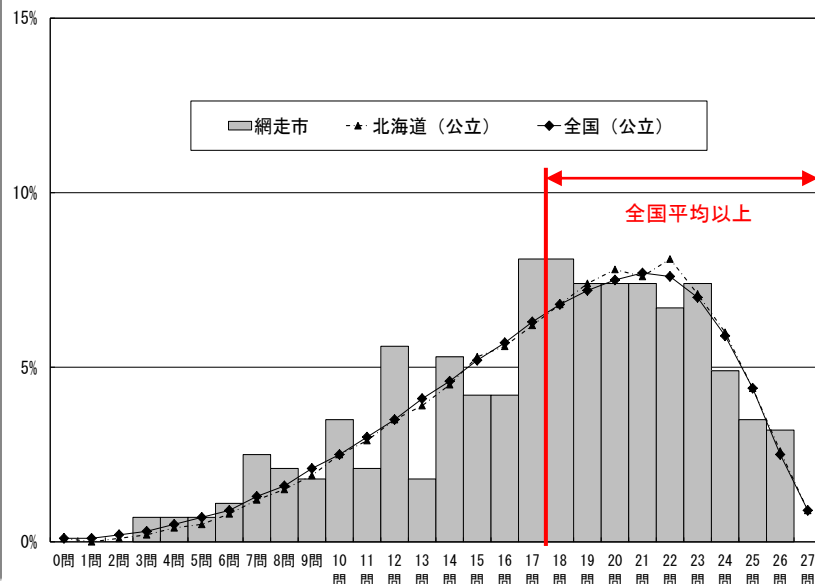
全国平均正答率(%)との差(下位3問)

														網走市	全国(公立)	全国との差
7(1)	地震の揺れの強さが震度であること、S波による揺れが主要動であることの知識を身に付けている	○				(2)ア(4)			○	○				45.3	55.1	-9.8
6(1)	電流計は回路に直列に接続するという技能及び電流計の電気用図記号の知識を身に付けている	○	(3)ア(7)					○	○	○				62.8	70.5	-7.7
3(3)	シミュレーションの結果について考察した内容を検討して改善し、台風の進路を決める条件を指摘できる	○			(4)ウ(7)			○				○		46.0	52.3	-6.3

【中学校理科の概要】

- 正答率の全国平均との差は、
-1.4ポイント。
- 正答率が全国平均を上回った問題は27問中9問。
- 学習指導要領の領域別(4領域から出題)では、1領域で全国を上回り、3領域で全国を下回っている。
- 問題形式別では、「短答式」で全国を上回り、「選択式」「記述式」で全国を下回っている。
- 平均正答数が18問(全国平均)以上の割合
全国 ~ 57.5%
網走 ~ 56.0%

【正答数分布グラフ(横軸:正答数,縦軸:割合)】

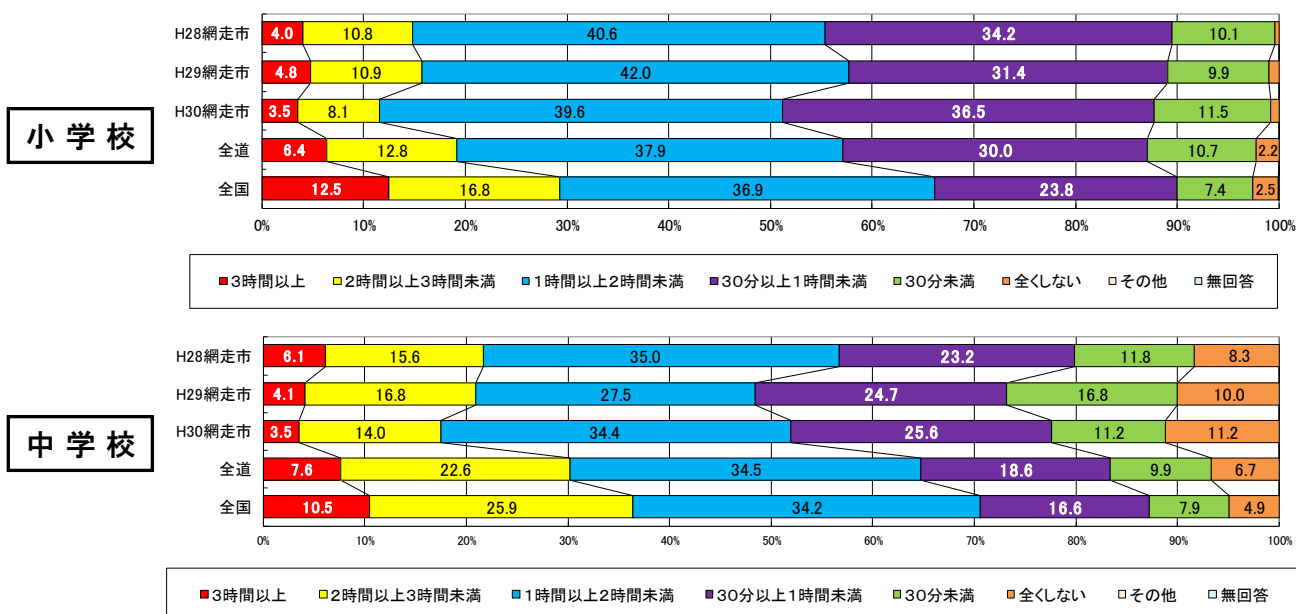


4. 児童生徒質問紙調査

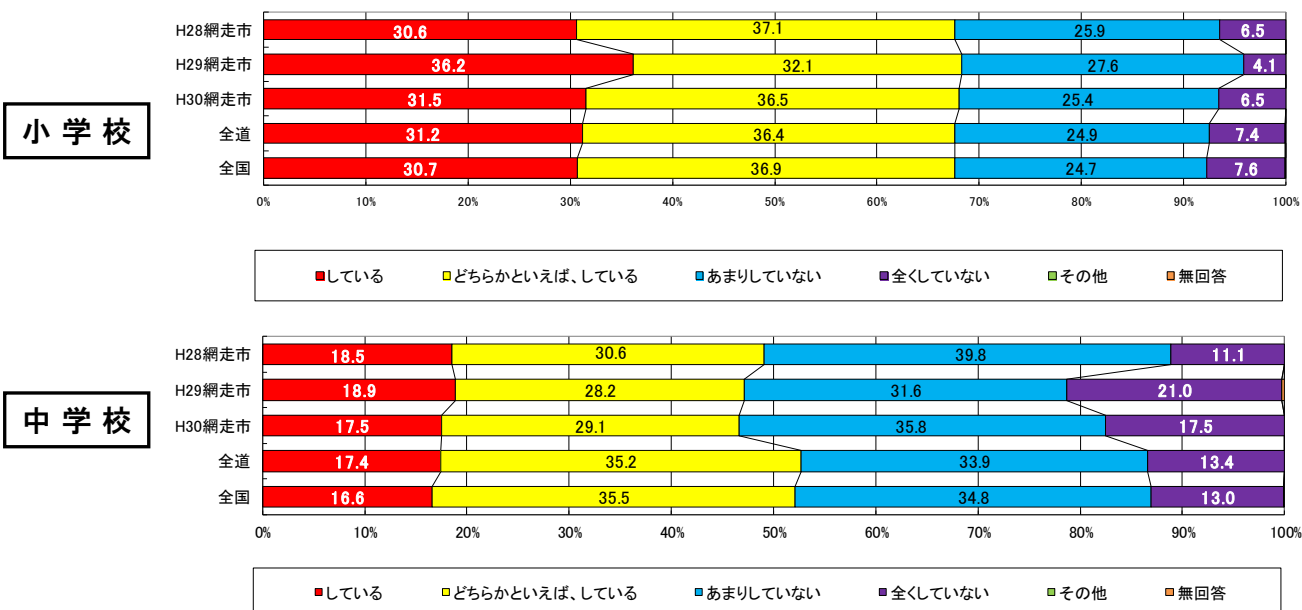
(1) 学習習慣・読書習慣の概要

- 「学校の授業時間以外に、普段、1日当たり1時間以上勉強している」は、小学校、中学校ともに全国より低い傾向を示している。
- 小学校は、「自分で計画を立てて勉強している」「学校の予習・復習をしている」で全国よりやや高い傾向を示している。
- 中学校は、「学校の宿題をしている」に比べ、「授業の予習・復習をしている」が全国より低い傾向を示している。
- 「学校の授業時間以外で読書をする時間」は、小学校、中学校ともに全国より低い（読書時間が短い）傾向を示している。

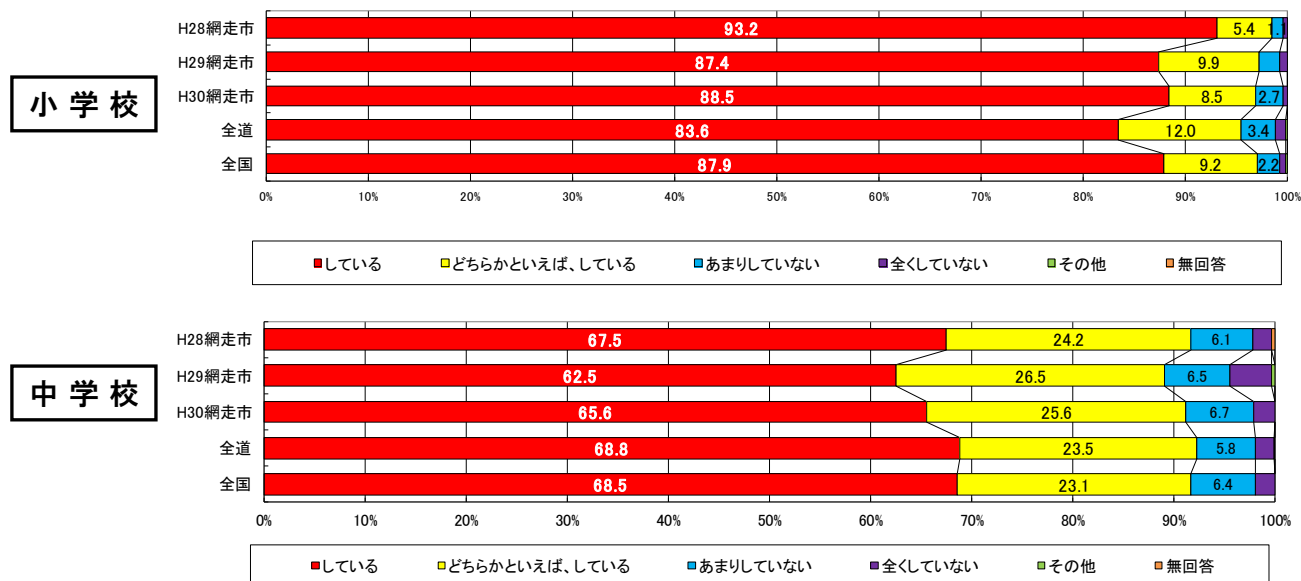
○「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」



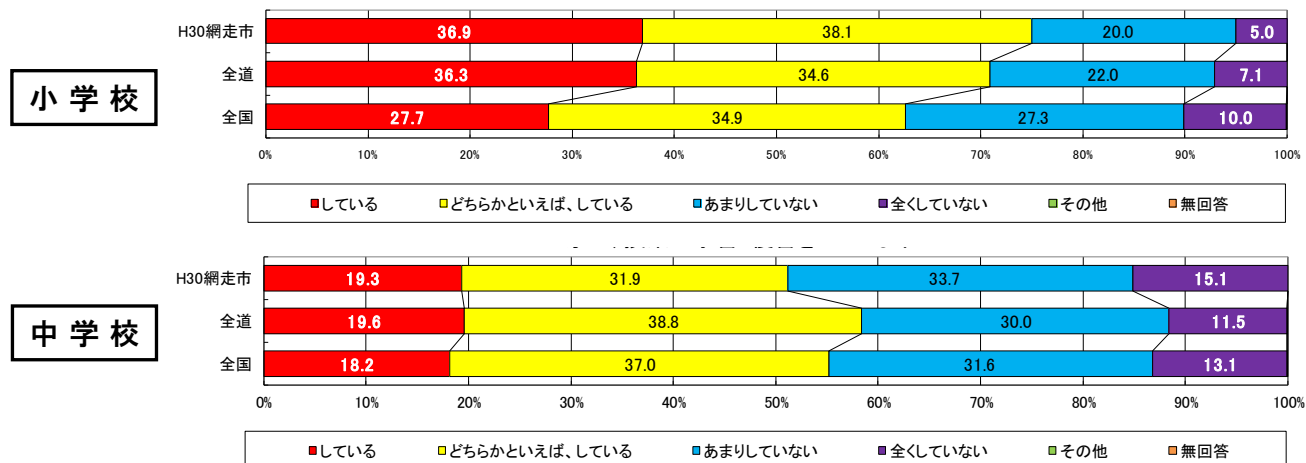
○「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」



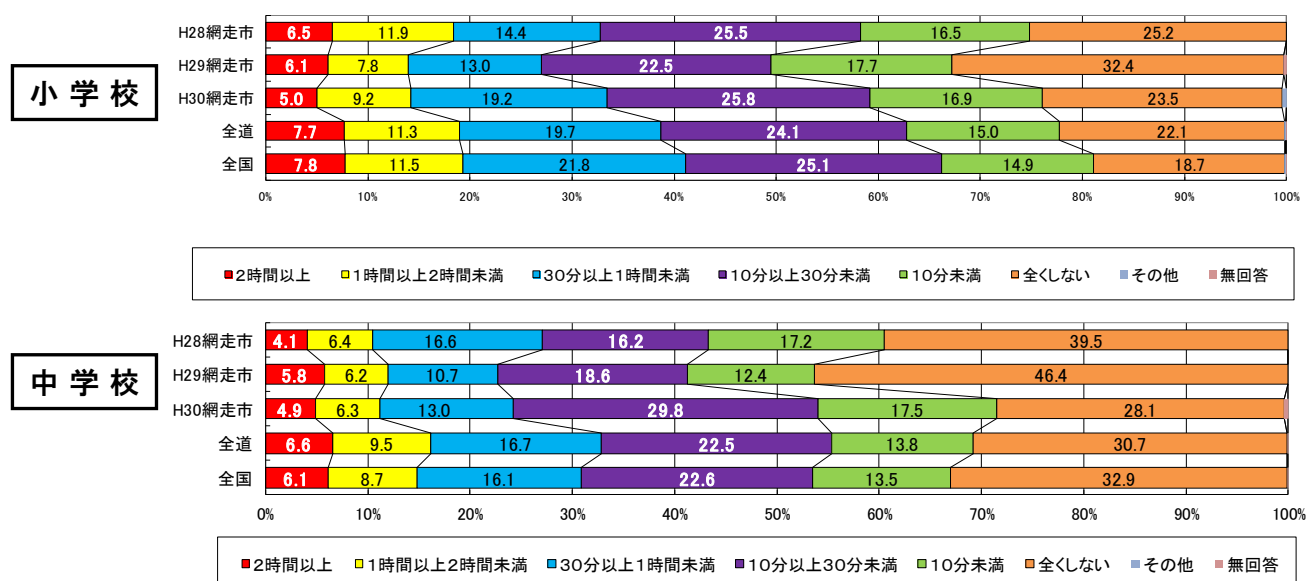
○「家で、学校の宿題をしていますか」



○「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」



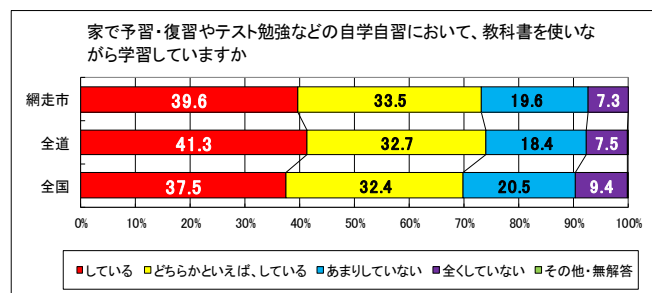
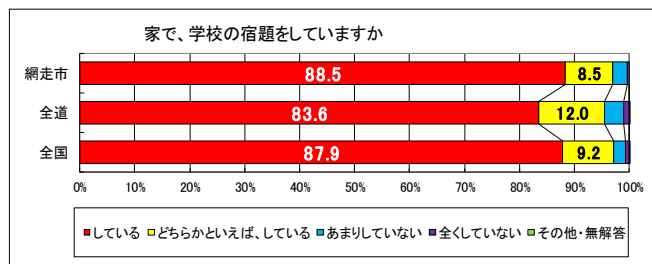
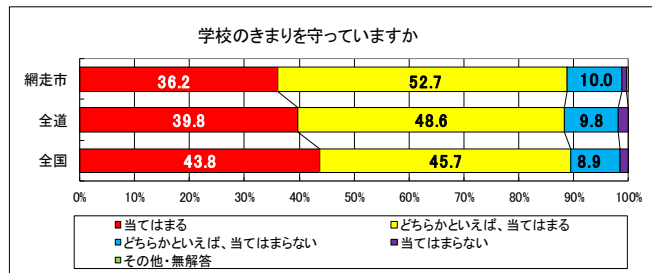
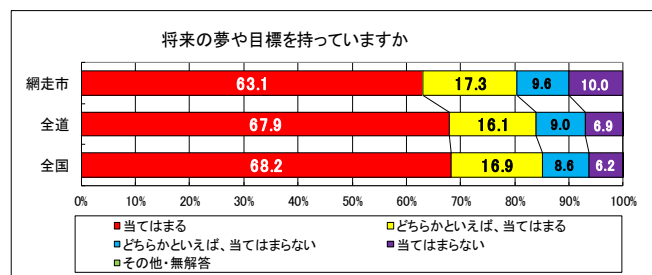
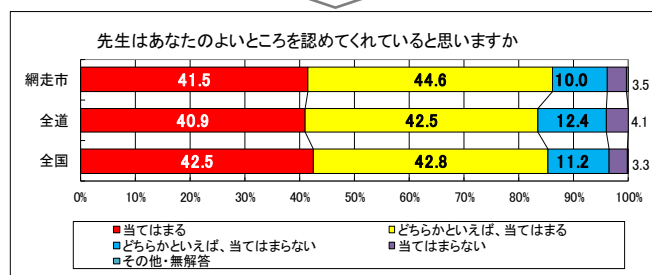
○「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間読書をしめますか」



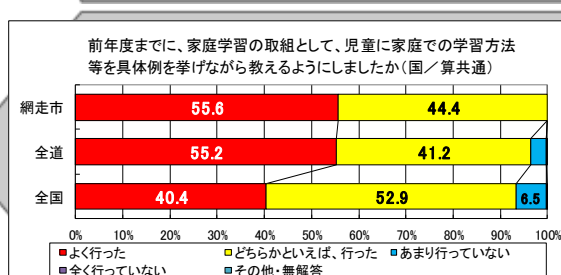
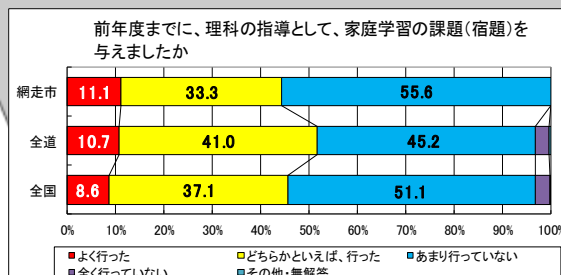
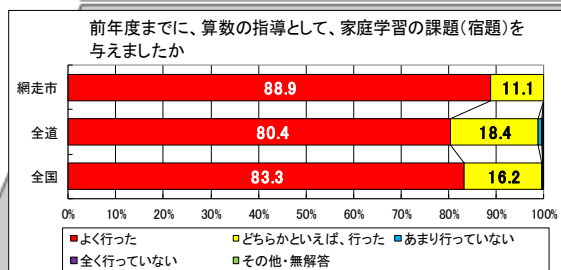
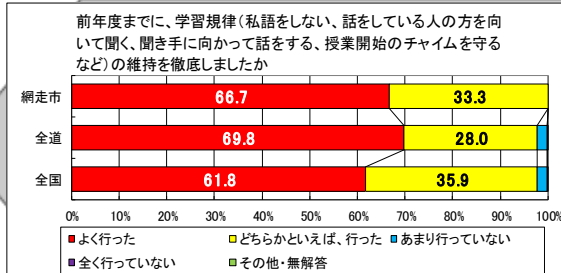
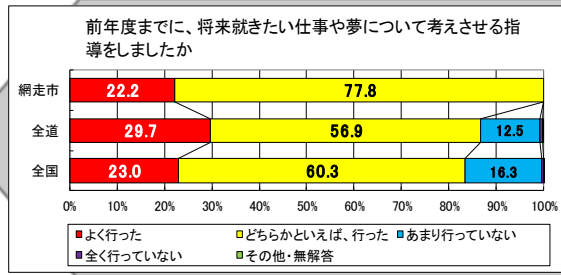
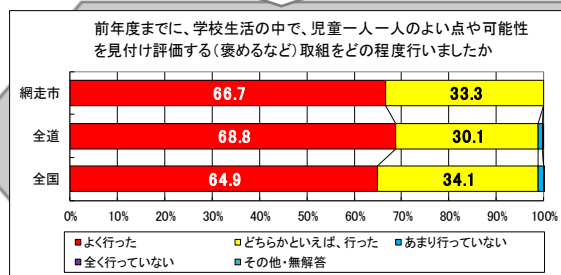
(2) 児童生徒質問紙と学校質問紙の比較

小 学 校

児童質問紙

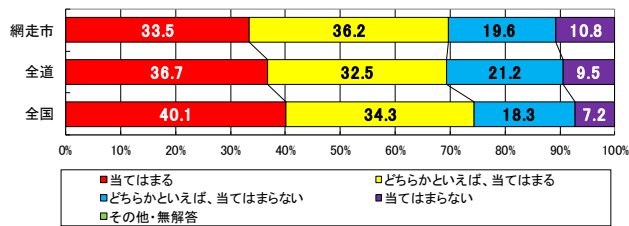


学校質問紙

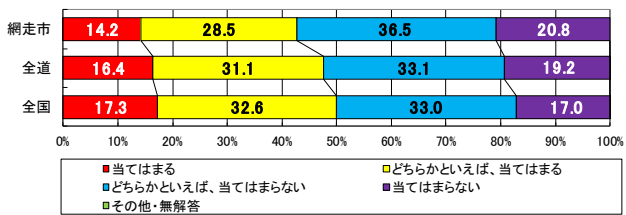


児童質問紙

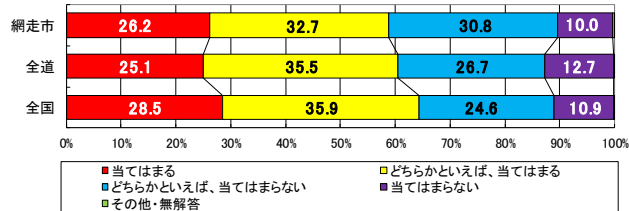
5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか



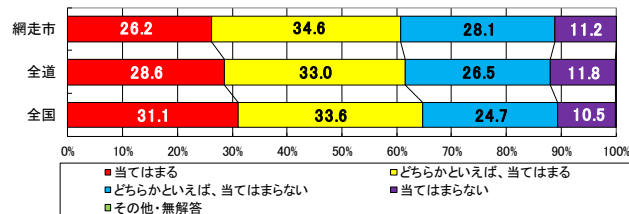
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか



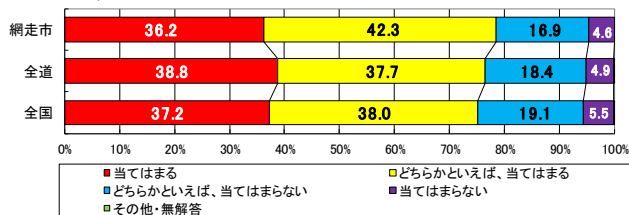
算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか



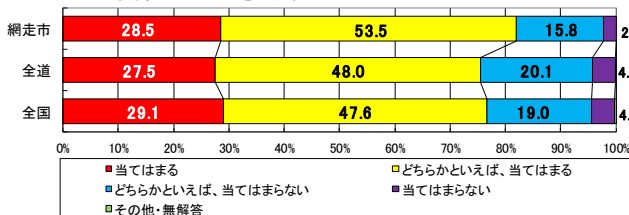
理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか



理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか

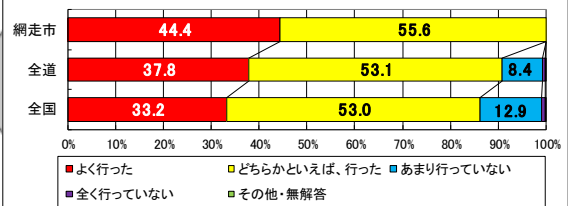


5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか

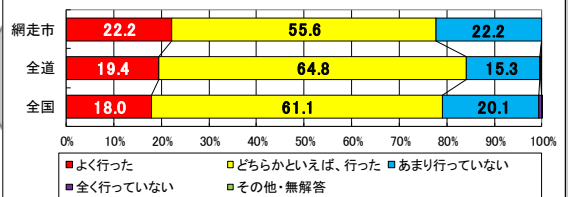


学校質問紙

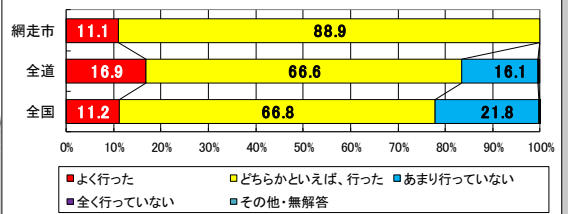
前年度までに、授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定を行いましたか



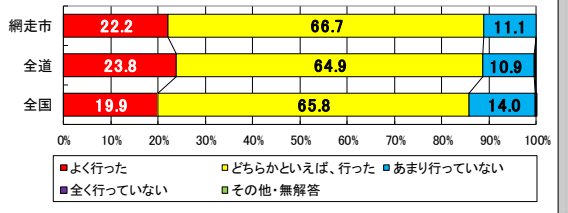
前年度までに、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導を行いましたか



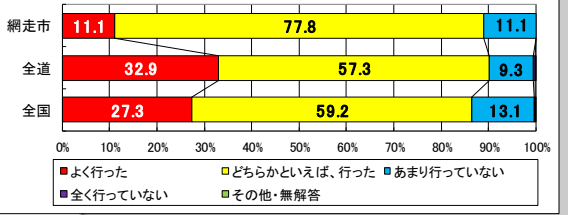
調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか



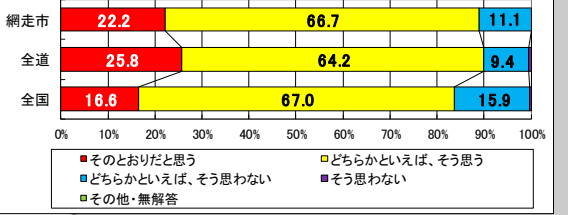
調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか



調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、自ら考えた仮説をもとに観察、実験の計画を立てさせる指導を行いましたか

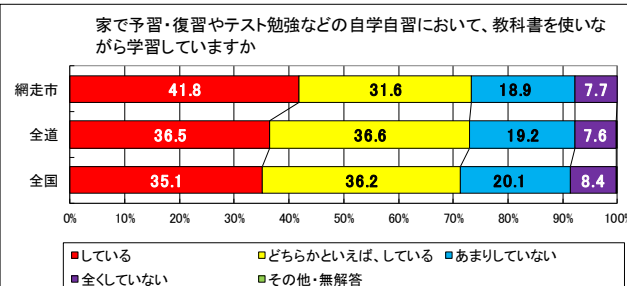
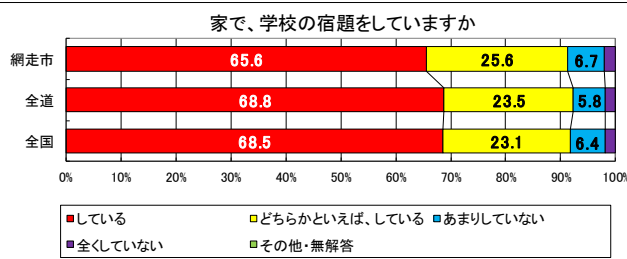
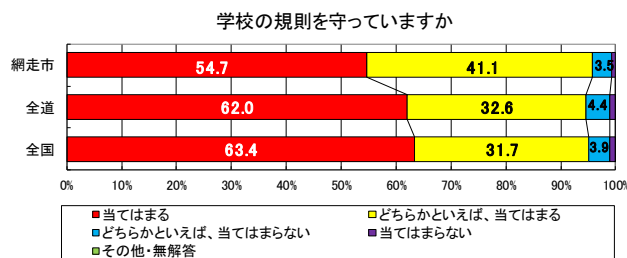
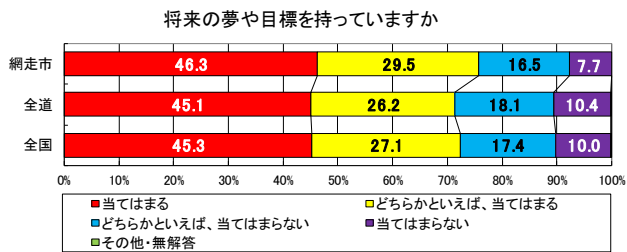
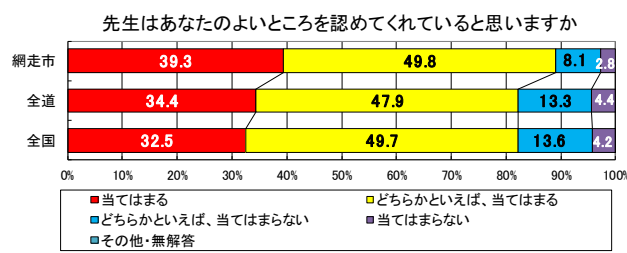


調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

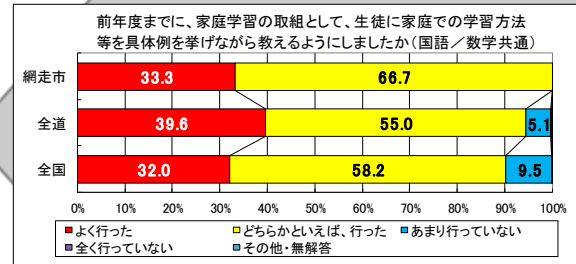
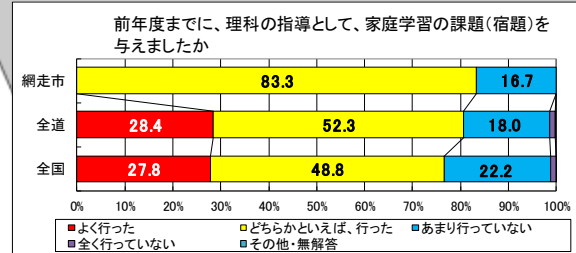
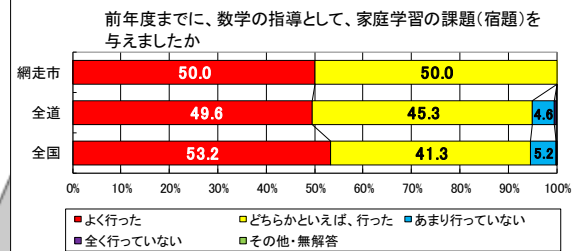
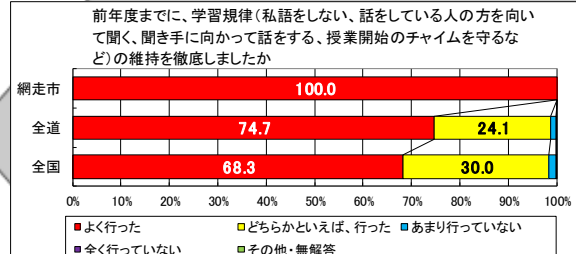
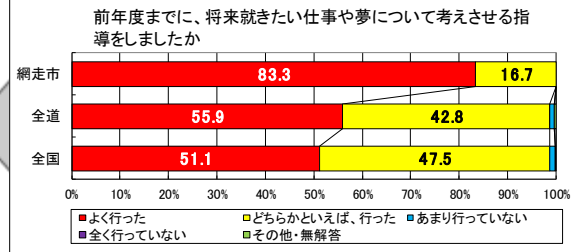
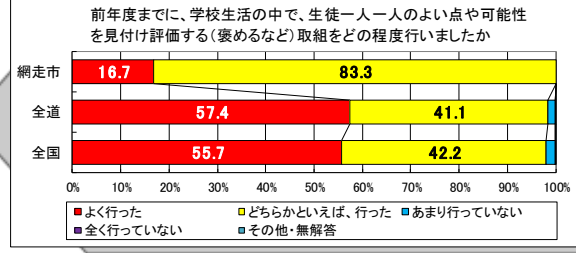


中学校

生徒質問紙

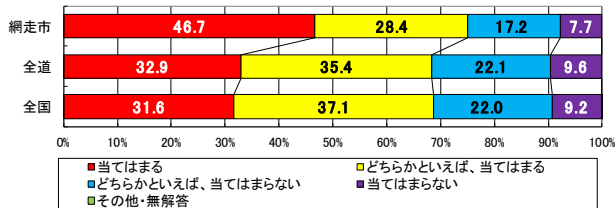


学校質問紙

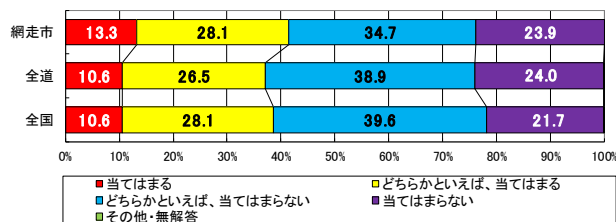


生徒質問紙

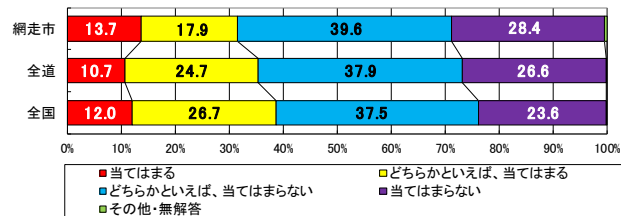
1、2年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか



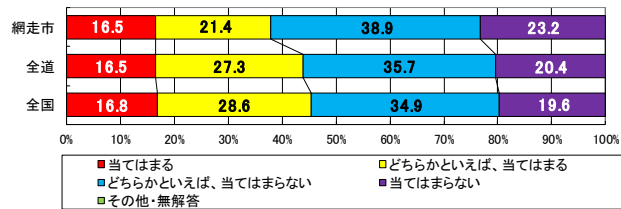
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか



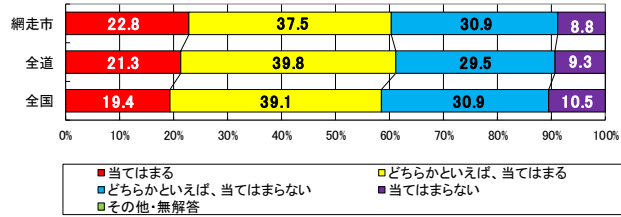
数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか



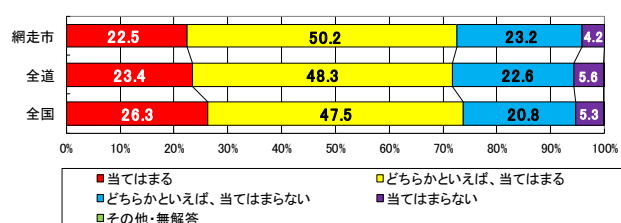
理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか



理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか

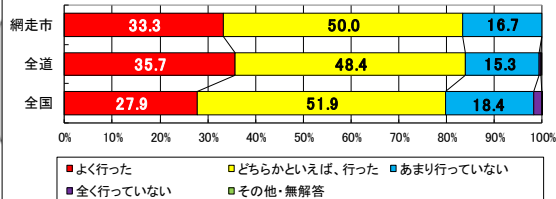


1、2年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか

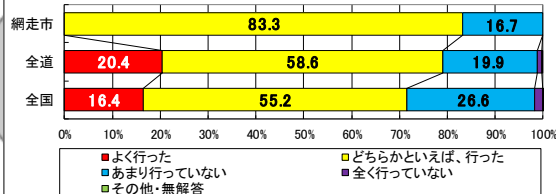


学校質問紙

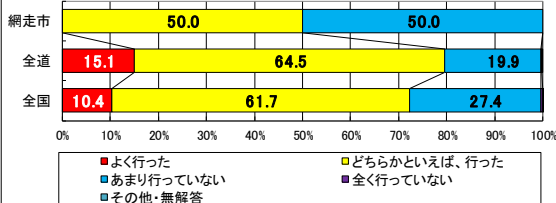
前年度までに、授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定を行いましたか



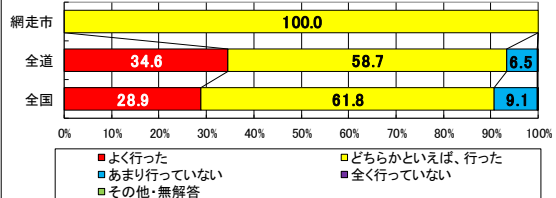
前年度までに、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導を行いましたか



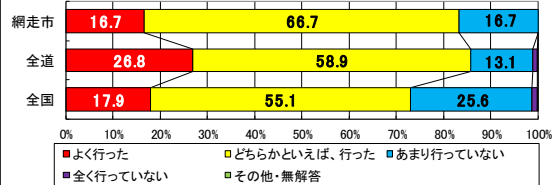
調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか



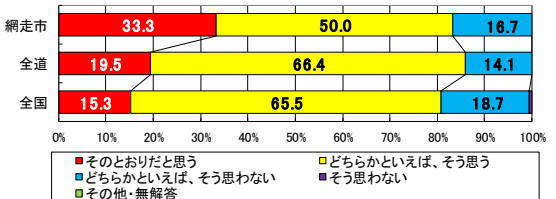
調査対象学年の生徒に対する理科の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか



調査対象学年の生徒に対する理科の指導として、前年度までに、自ら考えた仮説をもとに観察、実験の計画を立てさせる指導を行いましたか



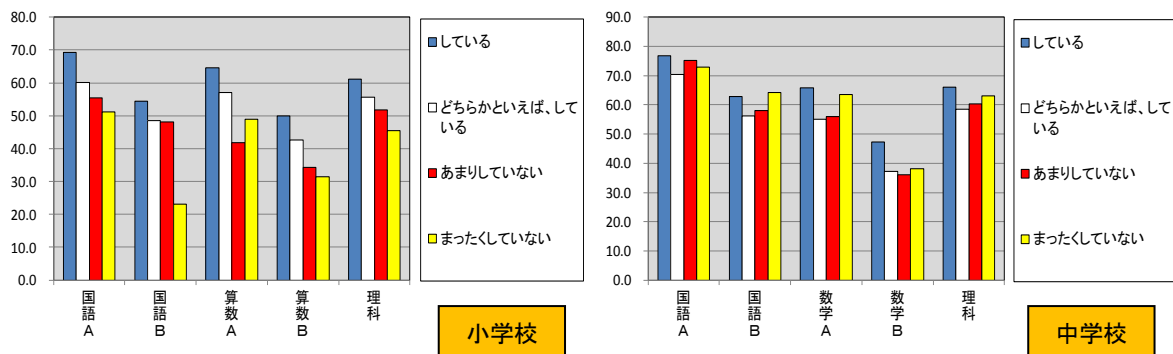
調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていますか



5. 質問紙調査と平均正答率の相関

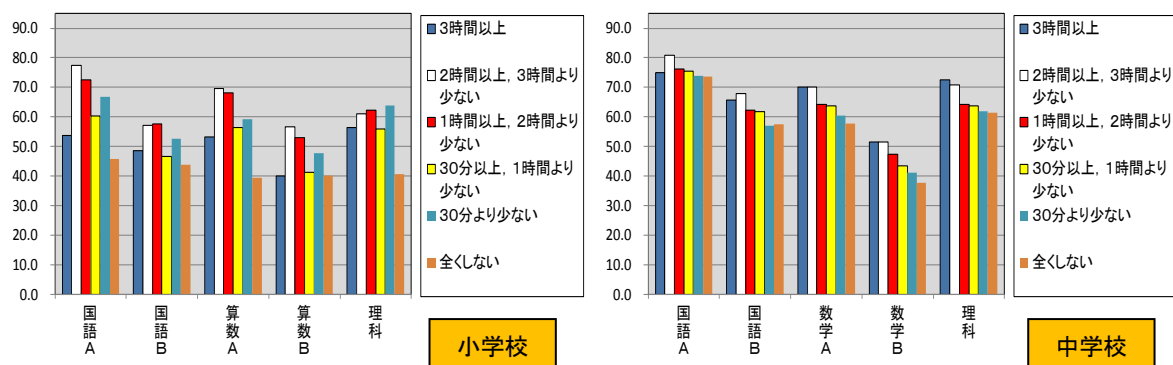
(1) 「朝食を毎日食べている」と正答率の相関

「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の方が「あまりしていない」「まったくしていない」と回答した児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。



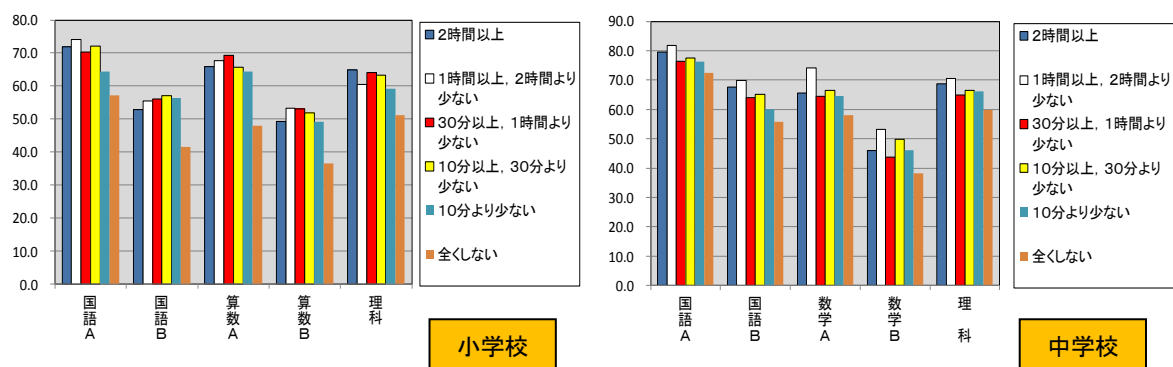
(2) 「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）1日当たりどれぐらいの時間、勉強をしているか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」と正答率の相関

「学校の授業時間以外に勉強をする時間が長い」児童生徒の方が、「学校の授業時間以外に勉強をする時間が短い」児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。



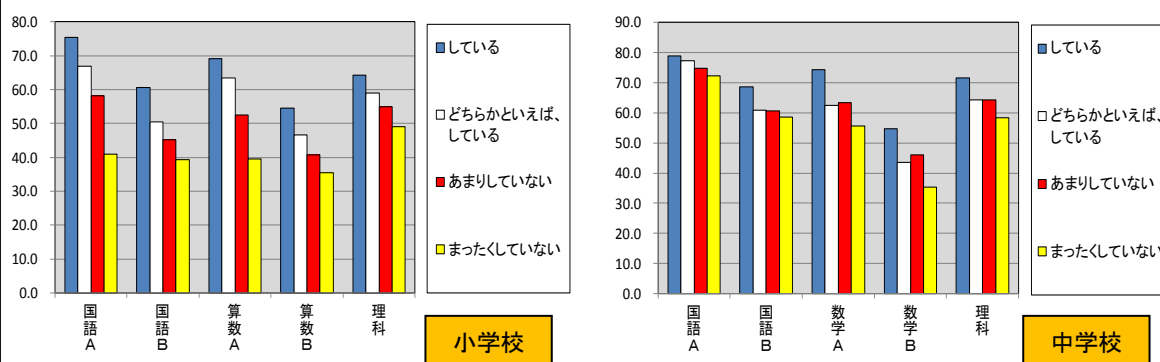
(3) 「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）1日当たりどれぐらいの時間、読書をしているか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」と正答率の相関

「読書をする時間が長い」児童生徒は、「読書をする時間が短い」児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。



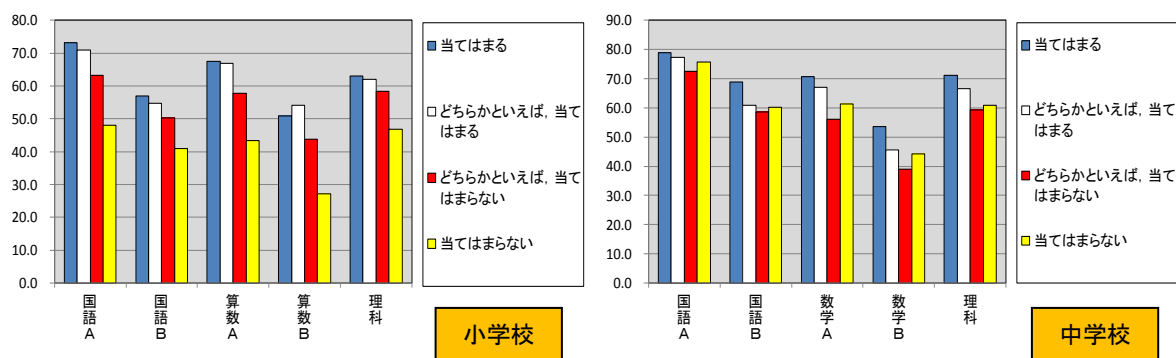
(4) 「家で、学校の授業の予習・復習をしている」と正答率の相関

「している」「どちらかといえばしている」と回答した児童生徒は、「あまりしていない」「全くしていない」と回答した児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。



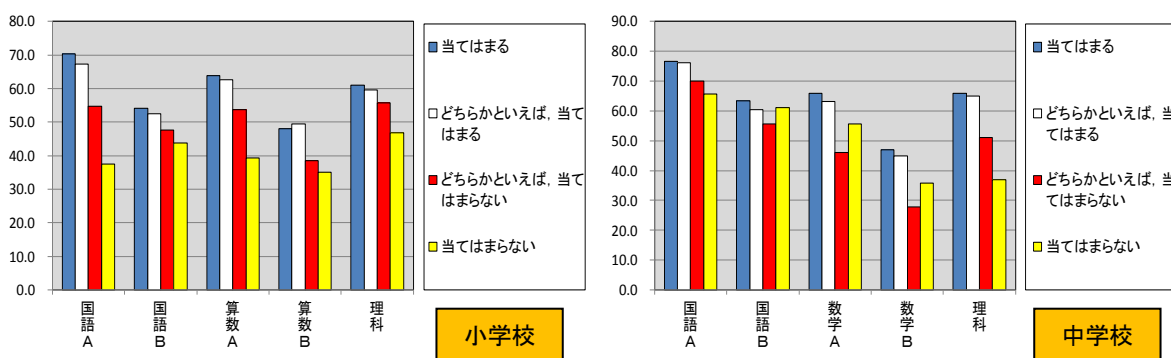
(5) 「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があるか」と正答率の相関

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒は、「どちらかといえばあてはまらない」「当てはまらない」と回答した児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。



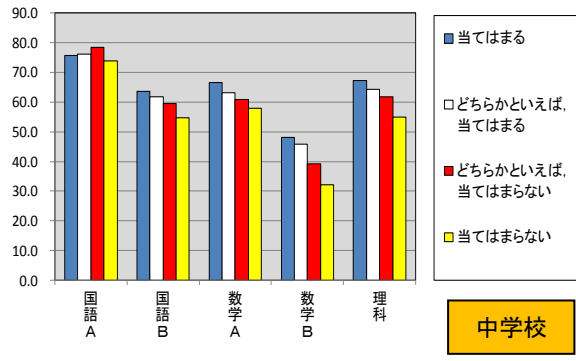
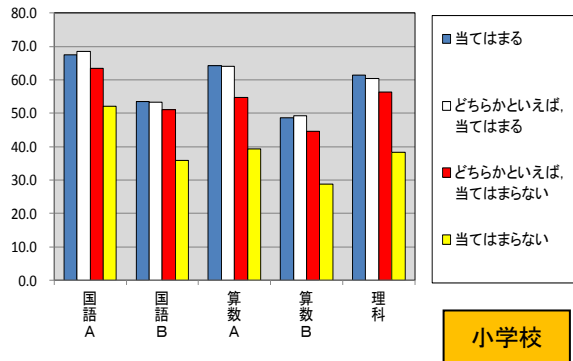
(6) 「学校のきまり（規則）を守っている」と正答率の相関

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒は、「どちらかといえばあてはまらない」「当てはまらない」と回答した児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。



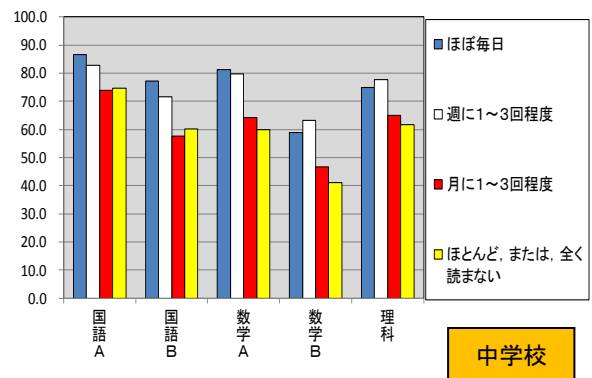
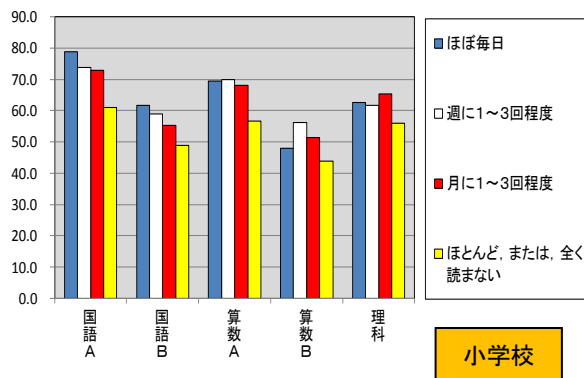
(7) 「自分にはよいところがあると思うか」と正答率の相関

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒は、「どちらかといえばあてはまらない」「当てはまらない」と回答した児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。



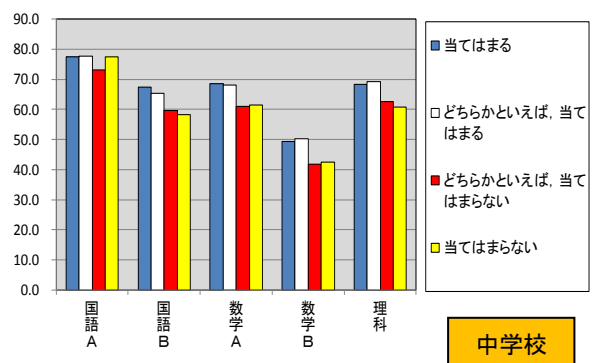
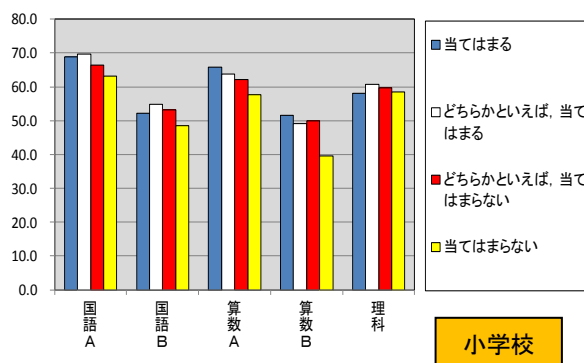
(8) 「新聞を読んでいるか」と正答率の相関

「ほぼ毎日」「週に1～3回程度」と回答した児童生徒は、「月に1～3回程度」「ほとんど、または、全く読まない」と回答した児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。



(9) 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあるか」と正答率の相関

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒は、「どちらかといえばあてはまらない」「当てはまらない」と回答した児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。



6. 調査結果における課題と改善のポイント

(1) 学校での組織的な取組〔▲改善を要する点 ◆改善のポイント〕

【学習状況調査の結果から】

- ▲国語、算数・数学のB問題で、正答数0～1問の割合が全国より高い。小学校はA・B問題ともに正答数0～1問の児童の割合が全国より高い。
- ▲国語、算数・数学、理科ともに記述式で解答する問題の正答率が低く、無解答率も全国に比べ高い。
- ▲経年比較で見ると、国語に比べ、算数・数学の正答率が全国に比べ低い傾向がある。
- ▲経年比較で見ると、算数・数学「図形」の領域が全国に比べ低い傾向がある。

- ◆個々の学習の状況を把握し、少人数指導、習熟度別学習などによりきめ細かな指導を行う。
- ◆長期休業中や放課後に補充学習を行ったり、朝学習の時間を設定したりするなど、学習内容の定着を図る。
- ◆個々の学習状況に応じて、発展的な問題にも積極的に取り組ませる。
- ◆授業の中に、学習のめあてを示したり、まとめたりする学習を位置付けるなど、「見通す」「振り返る」学習活動を確実に行う。
- ◆授業の中で、自分の考えを書く活動を設定するとともに、書いたことを交流したり、発表したりする場面を設定する。
- ◆授業や特別活動の中で、自分の考えを深めたり広げたりさせることを意図した話し合い活動を設定する。
- ◆授業の中で、目的や相手を意識した発表の機会を設定するとともに、発表の仕方について指導する。
- ◆話し方、聞き方、書き方などの指導について、6年間を見通した取組を学校全体で実施する。

【児童生徒・学校質問紙調査から】

- ▲授業時間以外に、1日当たり読書をする時間は改善の傾向が見られるが、30分以上読書をする割合は全国より短い。

- ◆低学年から本に触れる機会が多く設定されるよう読書指導に関わり全体計画(カリキュラム)を作成する。
- ◆朝読書など、全校一斉読書の時間を設定することにより、読書の機会を設ける。
- ◆学校図書館の活用の仕方についての指導の充実を図る。

【児童生徒質問紙調査から】

- ▲学校のきまり(規則)を「守っていると思う」児童生徒の割合が低い。

- ◆道徳教育や特別活動(学校行事)、キャリア教育の充実をはかり、規範意識や自尊意識の向上を図るとともに、物事をやり抜くことで達成感や満足感を味わわせる。
- ◆できた、わかった喜びを味わわせる指導の工夫を図る。

【児童生徒質問紙調査から】

- ▲学校の授業時間以外に、普段1日当たり、1時間以上勉強する児童生徒の割合が全国より低い。
- ▲中学校では、「全くしない」と回答する割合が全国より高い傾向がある。

- ◆家で学校の宿題をしている児童生徒の割合は高いことから、家庭での学習方法等について具体例を挙げながら教えることで、主体的に家庭学習に取り組めるようにする。
- ◆生活リズムチェックシートを活用するなど、1日の学習時間を継続して記録し、意識化を図る
- ◆家庭学習の出し方について教職員で共通理解を図るとともに、家庭学習の方法等について具体的な例を挙げながら指導を行う。

(2) 家庭での取組

【児童生徒質問紙調査から】

- ▲学校の授業時間以外に、普段1日当たり、1時間以上勉強する児童生徒の割合を高めていく必要がある。
- ▲1日当たり、「全く勉強をしない」と回答する割合を0にする必要がある。
- ▲授業時間以外に、1日当たり30分以上読書をする児童生徒を増やす必要がある。
- ▲学校のきまり（規則）を守っていると思う児童生徒の割合を高めていく必要がある。
- ▲「自分にはよいところがある」と回答する児童生徒の割合を高めていく必要がある。
- ▲地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある、地域のボランティア活動に参加したことがある児童生徒の割合を高めていく必要がある。

①子どもの生活リズムを整えましょう

- 生活リズムチェックシートを活用し、子どもが自ら生活を記録する習慣化を図りましょう。
- 朝起きる時間、夜寝る時間が不規則にならないようにしましょう。朝ごはんは、しっかり食べてきましょう。（早寝早起き朝ごはん）

②家庭でのルールや目安を決め、しっかり守るよう子どもと約束をしましょう。

- 家庭学習は、1日【小学校】学年×10分+10分、【中学校】学年×1時間+10分を目標に取り組みましょう。
- テレビ、DVD、ビデオの視聴時間、テレビゲーム（携帯式ゲーム）の時間を少なくしましょう。
- 家庭で読書をする時間を設けましょう。
- 携帯電話（スマートフォン）、SNS、メール、インターネットなどは、使用できる時間などきまりを設けましょう。

③家の中に、勉強ができる環境を作りましょう。

- 新聞やニュースを見る、地図や地球儀を身近に準備するなど、社会に興味を持たせるような準備をしましょう。

④学校での出来事について話を聞く時間を作りましょう。励ましやほめることを大切にしましょう。

⑤地域の行事へ参加させたり、図書館、社会教育施設を積極的に活用させたり、網走のよさにふれる時間をつくりましょう。

■ 全国より高い傾向を示した項目 ■

■小 学 校■

- ・地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがある
- ・新聞を読んでいる
- ・5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。
- ・5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う
- ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。

■中 学 校■

- ・授業で、生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている
- ・家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をする
- ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある
- ・地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがある
- ・生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う

（３） 網走市教育委員会における学力向上の方策

この方策は、これまで網走市教育委員会が取り組んできたものをさらに推進・拡充させていくものと、新たに取り組むものです。

１ 教職員の指導力を高めるために、教職員研修の充実を図ります。

- （１） 北海道立教育研究所や網走地方教育研修センター等の受講促進、先進地視察研修、公開研究会への参加、オホーツク管内教育研究団体への加入の促進を図ります。
- （２） 市内すべての学校で公開研究会を実施するとともに網走市学校教育研究実践事業により公開研究会の開催を支援します。
- （３） 教職員の授業力向上のため、北海道教育委員会の専門的教育職員による学校教育指導を複数回要請し、授業改善や研究協議の充実を図ります。
- （４） 「学校力向上に関する総合実践事業」実践指定校、連携校の取組を支援するとともに、効果のある実践指定校の取組を普及させ、教職員の資質の向上を図ります
- （５） 「網走市学力向上フォーラム」の開催や、先進地への視察研修など、網走市学力向上推進委員会の活動を支援するとともに、網走市教育委員会主催の研修会を開催し、教職員の指導力向上を図ります。
- （６） 読書指導や家庭学習習慣の定着に成果を上げている学校の取組を網走市学力向上推進委員会の中で共有し、各学校における具体的な取組の改善を図ります。

２ 子どもの学びを支える教育環境の整備を図ります。

- （１） 学習内容をより分かりやすく伝えるためのＩＣＴ機器（実物投影機、大型ＴＶ、タブレット端末等）を整備するとともに、ＩＣＴ機器の活用に関わる研修会を開催します。
- （２） 学校図書館司書の配置や学校図書の整備など、読書環境の改善や、学校図書館機能の充実を図ります。

３ 子どもたちに自ら学ぶ意欲をはぐくみ、確かな学力の定着を図ります。

- （１） 学習内容の定着を図るため、長期休業中や放課後の補充学習の充実、少人数指導や習熟度別学習、学習支援員の配置などによる、きめ細かな学習を推進します。
- （２） 子どもたち一人一人の理解を深めるため、学力状況を把握する標準学力検査や、学校での適応感を把握する検査の活用を促進します。
- （３） 学び方に関する「全校共通指導事項」の取組を推進し、学習規律の定着を図ります。
- （４） 家庭での学習習慣確立のために、学校・家庭・地域が連携し、家庭学習の習慣化やテレビ・ゲームの時間の見直しなど、「生活リズムチェックシート」の積極的な活用を図ります。
- （５） 小学校から中学校への円滑な接続、中１ギャップ未然防止のために、中学校校区を中心とした小中連携を推進します。
- （６） 東京農業大学との連携による、「長期休業中の学習サポート」「学習サポート事業（あばしり寺子屋）」を推進します。

4 健やかな学びを支えるために、体力向上の取組を推進します。

- (1) 心身ともに健康な子どもを育成するために、保護者、地域とともに、「早寝・早起き・朝ごはん」など望ましい生活習慣の定着、運動に慣れ親しむ機会を作るなど体力向上の取組を推進します。
- (2) スポーツ合宿団体によるタグラグビー教室などのスポーツ教室を開催します。また、教育長杯タグラグビー大会や、オホーツク網走マラソンなどの各種スポーツ大会への参加促進を図ります。
- (3) 1時間の授業の中でできるだけ運動する時間を確保したり、互いに教え合う活動を取り入れたりするなど、楽しく達成感が味わえる体育の授業の充実を図ります。
- (4) 日本体育大学との連携による、「子ども体力づくりサポート」や「体育授業改善研修会」を実施します。

5 特別支援教育の充実を図ります。

- (1) 特別支援教育支援員などの人的支援の充実や関係機関との連携を図ります。
- (2) 教職員や保護者の特別支援に対する理解を深めるため、研修会の実施、教育相談体制の充実を図ります。

6 思いやりを大切に、豊かな心や地域を愛する心を育みます。

- (1) 道徳教育推進校における教育講演会の開催、地域・保護者への積極的な道徳の時間の公開など、道徳教育の充実を図ります。
- (2) 「網走市子ども会議」を開催し、子どもが主体的に取り組むいじめ防止の取組を推進するなど、心の教育の充実を図ります。
- (3) 地域に対する愛着や関心を高めるために、地域を素材とした総合的な学習の時間、ふるさと教育、食育などの充実を図ります。
- (4) 「網走市読書感想文コンクール」の実施、家読（うちどく）や朝読書の充実、読み聞かせなどによる良書との出会い、市立図書館による「読書ノート」の積極的な活用により読書の充実を図ります。

7 地域、保護者との連携を図り、地域とともにある学校づくりを推進します。

- (1) 学校と家庭、地域住民等が「地域でどのような子どもたちを育てるのか」、「何を実現していくのか」という目標やビジョン共有しながら、特色ある学校づくりを進めていくために、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入します。
- (2) 地域、保護者に開かれた学校を目指し、「オープンスクールウィーク」の実施や「網走市学校支援地域本部事業」によるボランティアの活用など、地域、保護者との連携を図ります。
- (3) 心身ともに健やかな子どもを育成するために、網走市PTA連合会と連携し、教育講演会、研修会を開催します。
- (4) ネットトラブルの未然防止を図るために、学習会を開催したり、使用のきまりを作成したりするなど、学校と保護者が連携した取組を推進します。